

# 地域創生科学研究科：科目構成と実施体制

持続可能な豊かな地域社会を創生するために、社会デザインやイノベーションに関する高度な専門知識・技術を身に付けて、学際的思考力と実践力を備えて主体的に行動できる高度専門職業人を育成する。

## 「地域創生リテラシー」(研究科共通科目)の目的と科目構成

### ●研究科に共通する高度な学際思考力や高度な実践力の養成

- ㊦ 21世紀の地域課題について社会デザインとイノベーションの観点から学際的思考力を養成。そのために、「地域創生のための社会デザイン&イノベーション」を配置。
- ㊧ 21世紀を見通す根源的視野として「ヒト」、「生命」に関する専門知識を養成。そのために、「現代社会を見通す：生命と感性の科学」を配置。
- ㊨ 地域社会の国際化に対応して、コミュニティから世界規模までの範囲で活躍するための専門知識を養成。そのために、「グローバルな視座を養う」を配置。
- ㊩ 文系と理系がクロスするように分析手法や知識を養成。そのために、文系学生向けの理系科目群と理系学生向けの文系科目群を配置。
- ㊪ 専門領域に関連する境界・学際領域の専門知識・技術と実践力の高いコミュニケーション能力を養成。そのために、「アカデミックコミュニケーション」を配置。
- ㊫ 地域課題解決のために実践的な応用力、行動力とコミュニケーション能力を養成。そのために、「実践インターンシップ」、「実践フィールドワーク」、「創生工学プロジェクト演習」、「国際インターンシップ」、「臨地研究」、「International Political Economy」、「Global Management」などを配置。

## 「境界・学際領域科目」の目的と科目構成

### ●専門分野に近い境界領域や学際領域の専門知識・技術を養成

社会デザイン科学専攻：社会デザインに関連する境界・学際領域の専門知識・技術を養成。そのために、「地域社会デザイン学分析展開論：実践を問い、現場に還す」、「地域デザイン工学プロジェクト」、「共生社会論」、「地域人間発達支援の実際と課題」などを配置。

工農総合科学専攻：工学分野と農学分野の境界・学際領域の専門知識・技術を養成。そのために、「光学基盤技術」、「バイオデザイン・プロセス学」、「環境分析化学」、「生体機械工学」、「エンジニアリング」、「スマート農林業」などを配置。

## 「専門科目」の目的と科目構成

### ●社会デザインやイノベーションに関する高度な専門知識・技術を養成する

社会デザイン科学専攻：社会デザインに関する専門科目を8学位プログラムごとに配置

工農総合科学専攻：イノベーションに関する専門科目を8学位プログラムごとに配置

<学位プログラムとは>

専攻に、専門性を担保しながら学際的思考力と実践力を養成する単位として、学位プログラムを設けた。社会デザイン科学専攻と工農総合科学専攻にそれぞれ8学位プログラムがある。

## 「特別演習」、「特別研究」、「実践プロジェクト」(コースワーク)の目的

### ●学際的思考力・実践力と高度な課題解決能力及び研究力を養成する

### <連携・融合を実質化するための実施体制>

“従来の単独の専門分野に閉じこもった「特別演習」、「特別研究」、「実践プロジェクト」ではない”

“異分野からの指導・助言による学際的思考力・研究力や実践力の向上”

デュアル指導体制：指導教員は、研究指導の資格を有する教員(Mマル合)から主指導教員1名と、Mマル合又は研究指導補助の資格を有する教員(M合)から副指導教員2名の3名で構成し、この内、第1副指導教員は学位の専門性を担保するために同じ学位プログラムの教員になる。一方、第2副指導教員は、専門分野に対して境界領域や学際領域の観点から学生の研究進捗や専門能力の修得に対して指導を行うことが目的であり、異なる学位プログラムの教員になる。(専門分野からの指導と境界領域・学際領域からの指導)

「研究サポート」の設置：学生からの相談窓口として「研究サポート」にコーディネータを配置して、他の専門分野の教員の紹介や研究相談等に応じる。更に、主指導教員が学生のテーマや希望によって、副指導教員以外の他の専門分野から研究進捗や専門能力の修得に対してアドバイスを希望する場合は、「研究アドバイザー」を置くことができる。

●指導教員(3名)と「研究アドバイザー」は学生に対する情報の共有化を図り、一体のチームとして学生の学修・研究計画の作成、着実な履修と学修の進捗等、に対して適切に指導・助言を行うものとする。なお、成績評価に合わせて半期ごとのチーム会議を定例として必要性に応じて随時実施する。

●FDの実施：教職員が共通認識を持って、研究科の目的を達成するための取組や支援体制等の改善を継続的に実施するためにFDを実施する。

学位プログラム (30単位) : 「地域創生リテラシー」(10単位) + 「専門科目」(20単位)

## ● 「地域創生リテラシー」(10単位) : 養成する能力と構成

**【目標】** : 地域創生のための高度な科学リテラシーとして、学際的思考力と実践力を養成する。

社会の抱える問題・課題が高度化・複雑化しているなかで、大学院修了生が高度専門職業人として指導的役割を果たすためには、専門的知識・技術の修得に特化するだけでなく、課題解決に向けて強靱に且つしなやかに対応する思考力と行動力を身に付ける必要がある。そのためには、目先の成果だけに捉われない雄大な構想や着想が重要であり、歴史を踏まえながら物事の本質について深く考える力や、実践的なコミュニケーション能力、グローバル化への対応力や協働性、従来の学術分野に捉われないで多面的な視野から課題に挑戦するチャレンジ精神等の養成が必要である。これらは、全ての専門分野において共通に必要であり、研究科全体の“科学リテラシー”として身に付けるべき能力である。

### 【養成する能力と構成】

#### ● 学際的思考力を養成 (8単位) :

◇「地域創生のための社会デザイン&イノベーション」(2) : 持続可能な地域社会の創生に関する課題(社会福祉, 人間, 防災, 環境, ものづくり, 農林業)を題材として、一つのテーマに対して社会デザインとイノベーションの両方の観点から現状・課題・未来について講義し、それを受けて学生のグループ討論(分野横断グループ)を行い、地域創生に関する学際的な見方・思考力を養成する。

◇「現代社会を見通す: 生命と感性の科学」(1) : 歴史を踏まえながら私たち「ヒト」とは何かを基盤にして、人文社会科学や自然科学をみつめる力や、文系や理系の区別なく21世紀の人間社会を考える力を身に付けるために、生命と感性の素養を養成する。

◇「グローバルな視座を養う」(1) : 課題解決に向けてグローバルな視野を広げるために、地域デザイン科学と国際学の素養を学びグローバルリーダーを形成する。

◇「アカデミックコミュニケーション」(2) : 研究室にとどまらない多様な分野の研究者・教員・実務家及び学生を自由闊達に意見交換・議論を行う「オープンゼミ」により、広い視点から専門知識への理解度を深めると共に、より高度な専門知識・技術及び学際的思考力と実践力を養成する。

◇学際的俯瞰力の基礎 (2) : 複眼的視野を広げ専門知識の汎用性を高める学際的俯瞰力の基礎を養成するために、文系の学生向けに理系科目を配置し、理系の学生向けに文系科目を配置する。

● 実践力を養成 (2単位) : 将来的に高度専門職業人として活動する地域を想定しながら、国内や海外での実践力としてコミュニケーション能力や協働能力等を養成する。このために、将来的に県内・国内での活動に関心のある学生と世界規模でグローバルに活動することに関心のある学生を対象として、次の二つを選択制として科目を配置する。

◇県内・国内での活動に関心のある学生 : 「実践インターンシップ」(2), 「実践フィールドワーク」(2), 「創成工学プロジェクト演習」(2) から2単位以上を修得する。専門分野に関連する国内の企業等でのインターンシップ, フィールド調査・分析, 商品開発PBLなどの体験学修を通じて、コミュニケーション能力, チャレンジ精神, 協働力を向上させて実践力を養成する。

◇世界規模でグローバルな活動に関心のある学生 : 「International Political Economy」(2), 「Global Management」(2), 「Globalization and Society」(2), 「国際インターンシップ」(2), 「臨地研究」(2) から2単位以上を修得する。国際社会・情勢の動向等を題材とするアクティブ・ラーニング(英語によるディスカッション, プレゼンテーションなど)による授業や海外での体験学修を通じて、グローバルなコミュニケーション能力, チャレンジ精神, 協働力を向上させてグローバル社会での実践力を養成する。

# 教育課程の基本構成②(特色②)

【地域の革新をリードする「知の拠点」形成】



学位プログラム (30単位) : 「地域創生リテラシー」(10単位) + 「プログラム科目」(20単位)

「地域創生リテラシー」(10単位) : 地域創生のための高度な科学リテラシーとして、学際的思考力と実践力を養成

養成する能力等		地域創生科学研究科	主な講義内容など
地域創生リテラシー 10 単位	学際的思考力 (8)	「地域創生のための社会デザイン&イノベーション」(2)	地域創生のための学際的な見方・思考力を養成するために、重要課題の社会福祉、人間、防災、環境、ものづくり、農林業を題材として、社会デザインとイノベーションの両方の観点から講義とグループ討論を行う
		「現代社会を見通す：生命と感性の科学」(1)	歴史を踏まえながら物事の本質について深く考える力を養成するために、人・ヒトに焦点を当て生命と感性について教授する。主な内容は、生命とは何か、ヒトの進化、ヒトとテクノロジー、感情と表現の科学、感性工学とは、など
		「グローバルな視座を養う」(1)	地域課題に対してグローバルな視座を養成する。主な内容は、グローバル化とローカルガバナンス、ライフマネジメント、アグリビジネス、Global Management、グローバル教育研究、多文化理解・異文化理解、クリティカル・シンキング、国際規格ISO、国際的なキャリア開発、など
	学際的思考力と実践力を養成	文系科目群 (「実践経営マネジメント概論」、「農業・農村の組織マネジメント」、「ソーシャルビジネス論」、「環境問題とガバナンスⅠ」、「感情コミュニケーションと社会的共生Ⅰ」、「文化人類学研究Ⅰ」、など) から2単位以上 理系科目群 (「文系のためのデータサイエンス」、「文系のためのオプト・バイオサイエンス入門」、「食品機能科学」、「メカニカル・エンジニアリング」、「博物学史」、「社会現象の数理」、など) から2単位以上	学際的素養の基礎を養成するために、文系の学生向けに理系科目を配置し、理系の学生向けに文系科目を配置する。 文系の学生は理系科目群を選択する。 理系の学生は文系科目群を選択する。
「アカデミックコミュニケーション」(2)		専門領域に関連する境界・学際領域の専門知識・技術を養成する。主な内容は、各学位プログラムが主宰する「オープンゼミ」で、多様な分野の研究者・教員・実務家及び学生が、それぞれの専門分野における先端研究の動向や、分野を取り巻く課題、或いは、各個人の研究活動・調査活動に即した分析手法や実験手法 等について、意見交換・議論を行う	
実践力 (2)	将来的に高度専門職業人として活動する地域を想定しながら、コミュニケーション能力、チャレンジ精神、協働力を養成	○「実践インターンシップ」、「実践フィールドワーク」、「創成工学プロジェクト演習」、から2単位以上 又は ○「International Political Economy」、「Global Management」、「Globalization and Society」、「国際インターンシップ」、「臨地研究」、から2単位以上	◇ <b>県内・国内での活動に関心のある学生</b> ：専門分野に関連する国内の企業等でのインターンシップ、フィールド調査・分析、商品開発PBLなどの体験学修を通じて、コミュニケーション能力、チャレンジ精神、協働力を向上させて実践力の基礎を養成する。 ◇ <b>世界規模でグローバルな活動に関心のある学生</b> ：国際社会・情勢の動向等を題材とするアクティブ・ラーニング(英語によるディスカッション、プレゼンテーションなど)による授業や海外での体験学修を通じて、グローバルなコミュニケーション能力、チャレンジ精神、協働力を向上させてグローバル社会での実践力の基礎を養成する。



# 教育課程の基本構成③(特色②)

【地域の革新をリードする「知の拠点」形成】



学位プログラム (30単位) : 「地域創生リテラシー」 (10単位) + 「専門科目」 (20単位)

「地域創生リテラシー」 (10単位) : 学際的思考力 (8単位) + 実践力 (2単位)

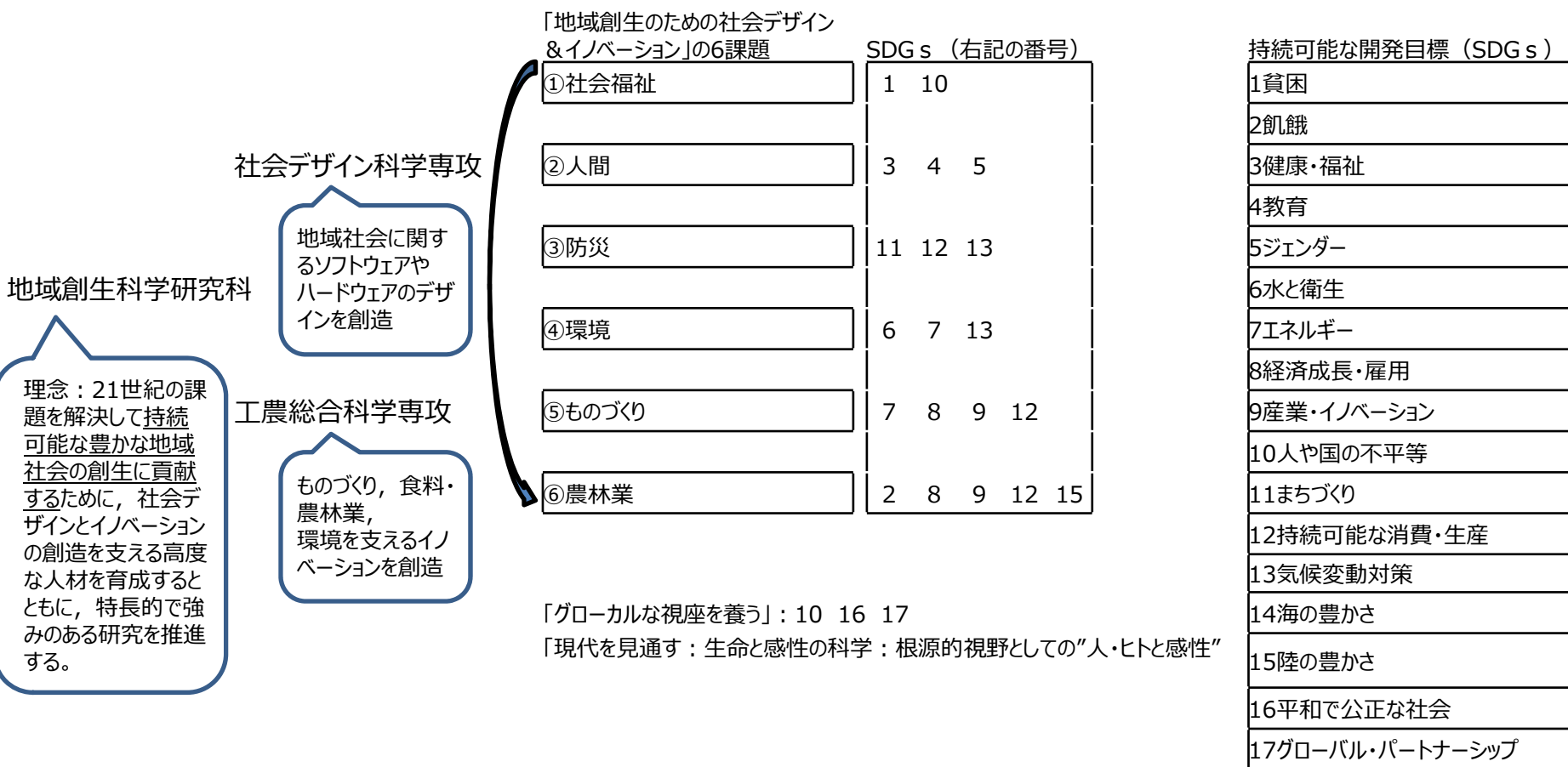
## 「地域創生のための社会デザイン&イノベーション」 (2単位 : 1年次通年)

持続可能な地域社会の創生にとって重要な課題 (社会福祉, 人間, 防災, 環境, ものづくり, 農林業) を題材として, 一つのテーマに対して社会デザインとイノベーションの両方の観点から現状・課題・未来について講義し, それを受けて学生のグループ討論 (分野横断グループ) を行い, 地域創生に関する学際的な見方・思考力を養成する。

34

	テーマ	授業タイトル	内容	主な担当
●	ビックデータから見える地域	A RESAS (地域経済分析システム) 等からみた地域	RESAS等を題材にして, ビックデータの活用によって地域課題の抽出と解決の理解を深める	コーディネーター, 実務家 (足銀総研)
○	社会福祉 : 社会デザイン&イノベーション	1 社会福祉の課題と社会制度・まちづくり (ソフト) など 2 社会福祉をサポートする技術開発・まちづくり (ハード) 3 グループ討論 (チャレンジしたら面白い領域, ……)	超高齢社会等を題材として, コミュニティの役割や福祉社会を支える技術開発・まちづくり等への理解を深める	コミュニティデザイン学, 建築学, 機械知能工学,
○	環境 : 社会デザイン&イノベーション	1 環境の課題と社会制度・コミュニティの役割など 2 環境に対するまちづくり・技術開発など 3 グループ討論 (チャレンジしたら面白い領域, ……)	持続可能な開発目標 (SDGs : 2015年の国連サミットで設定) における環境 (生物多様性, 気象変動, セロエミッションなど) に関連して, 現状と課題への理解を深める	農業土木学, 物質環境化学, 実務家 (自治体, 民間企業)
○	ものづくり : 社会デザイン&イノベーション	1 技術開発のマネジメント (組織対応, リスク, ……) 2 ものづくりを支える技術開発 3 グループ討論 (チャレンジしたら面白い領域, ……)	ものづくりを題材として, 民間企業等における技術開発の組織体制などマネジメントと技術開発等の実際と課題について理解を深める	機械知能工学, 情報電気電子システム工学, 実務家 (民間企業)
○	人間 : 社会デザイン&イノベーション	1 人間発達の諸要因と支援体制等について 2 人間発達・教育や社会・生活を支える技術開発 3 グループ討論 (チャレンジしたら面白い領域, ……)	人間発達の諸要因と支援体制及び「ヒト」と「モノ」を結びつける技術開発などについて, 現状と課題の理解を深める	地域人間発達支援学, 情報電気電子システム工学
○	防災 : 社会デザイン&イノベーション	1 防災の課題と社会制度・コミュニティの役割 2 防災に対するまちづくり・技術開発 3 グループ討論 (チャレンジしたら面白い領域, ……)	防災を題材として, コミュニティの役割や防災を支える技術開発等への理解を深める	土木工学, 実務家 (栃木県, 宇都宮市など)
○	農林業 : 社会デザイン&イノベーション	1 農林業技術の普及 : 現状と課題 2 食料・農林業を支える技術開発 3 グループ討論 (チャレンジしたら面白い領域, ……)	食料・農林業を題材として, 技術普及と技術開発等の実際と課題について理解を深める	農業・農村経済学, 農芸化学, 農業生産環境保全学, 森林生産保全学
●	全体討論, まとめ	1 プレゼンテーションと全体討論とまとめ及び全体講評	テーマに対するレポートについてグループごとにプレゼンテーションをして全体討論と講評を行う	コーディネーター

「地域創生のための社会デザイン&イノベーション」で取り上げる課題として、①社会福祉、②人間、③防災、④環境、⑤ものづくり、⑥農林業をキーワードとする6つの課題を設定した。この課題の設定にあたっては、本学の教育資源（地域デザイン科学、国際学、教育学、工学、農学の5分野）を前提としながら、2015年の国連サミットで持続可能な開発目標（SDGs）として具体的にまとめられた17の目標を念頭にそれらの多くをカバーするものとして上記の課題に設定した。なお、SDGsの“16平和で公正な社会”、“17グローバルパートナーシップ”については、地域創生リテラシーの「グローバルな視座を養う」や学位プログラム（グローバル・エリアスタディーズ、多文化共生学）で関連する授業科目が配置されている。これらの課題に対するより専門的分野からの教育研究は、更に、それぞれの専攻の学位プログラムの専門科目によって深まり、それらの総体は本研究科の目標である“持続可能な豊かな地域社会の創生”に貢献することに集約される。



授業の内容	持続可能な地域社会の創生にとって重要な課題(社会福祉, 人間, 防災, 環境, ものづくり, 農林業)を題材として, 一つのテーマに対して社会デザインとイノベーションの両方の観点から現状・課題・未来について講義し, それを受けて学生のグループ討論(分野横断グループ)を行い, 地域創生に関する学際的な見方・思考力を養成する。 全学生を専門の区別なくグループ化(5名~10名)し, 専門が異なる学生間の意見交換やグループワークを通して, 学際的な見方・思考力や実践力を養成する。
授業の達成目標	社会福祉, 人間, 防災, 環境, ものづくり, 農林業を題材として, 社会デザインとイノベーションの両方の観点から地域創生のための学際的な見方・思考力を養うことを目標とする。
学習教育目標との関連	分野横断的に専門が異なる学生間の意見交換やグループワークを通して, 持続的な社会の創生に関して, 多面的視野(学際的視野, 根源的視野)と学際的思考力を養成する。
前提とする知識	特に前提となる知識や関連する科目はないが, 新たなテーマに意欲的にチャレンジすることが求められる。
関連科目	「現代社会を見通す: 生命と感性の科学」, 「グローバルな視座を養う」
授業の具体的な進め方	持続可能で豊かな地域社会の創生に関する課題(社会福祉, 人間, 防災, 環境, ものづくり, 農林業)を題材として, 一つのテーマに対して社会デザインとイノベーションの両方の観点から現状・課題・未来について講義し, それを受けて学生のグループ討論(分野横断グループ)を行う。 全学生を専門の区別なくグループ化(5名~10名)し, 専門が異なる学生間の意見交換やグループワークを通して, 多面的な視野や分野横断的な思考力を身に付けることができる。また, 幅広い分野間での学生ネットワークは, 修士課程の期間全体に亘って学生の研究・勉強活動を支えるものと期待できる。 オリエンテーションの後, テーマごとに講義及び各グループ討論を通して, 各グループの考えをレポートにまとめ提出する。講義全体の最後には全体討論を実施する。
授業計画	各テーマについての導入を受講した後, グループ討論の成果を合わせて, レポートとしてまとめ提出する。提出されたレポートをプレゼンテーションし全体での討論を行う。 (第1回)オリエンテーション(グループ分け(5~10名程度)、本講義の趣旨説明、講義の実施・評価方法など): 横尾昇剛 (第2回)ビックデータから見える地域: RESAS((Regional Economy and Society Analyzing System)地域経済分析システム)等を題材にして, ビックデータの活用によって地域課題の抽出と解決の理解を深める: あしぎん総合研究所 (第3~4回)社会福祉: 超高齢社会等を題材として, コミュニティの役割や福祉社会を支える技術開発・まちづくり等への理解を深める: 古賀誉章 (第5~6回)環境: 持続可能な開発目標(SDGs (Sustainable Development Goals)): 2015年の国連サミットで設定)における環境(生物多様性, 気象変動, セロエミッションなど)に関連して, 現状と課題への理解を深める: 横尾昇剛 (第7~8回)ものづくり: ものづくりを題材として, 民間企業等における技術開発の組織体制などマネジメントと技術開発等の実際と課題について理解を深める: 長谷川光司, 渡邊信一 (第9~10回)人間: 人間発達の諸要因と支援体制及び「ヒト」と「モノ」を結びつける教育などについて, 現状と課題の理解を深める: 川島芳昭, 上原秀一 (第11~12回)防災: 防災を題材として, コミュニティの役割や防災を支える技術開発等への理解を深める: 近藤伸也 (第13~14回)農林業: 食料・農林業を題材として, 技術普及と技術開発等の実際と課題について理解を深める: 前田 勇, 池田裕樹 (第15回)プレゼンテーションと全体討論とまとめ及び全体講評: 横尾昇剛
教科書参考書等	教科書や参考書は指定しない。他に必要な資料があれば当日配布する。
成績評価の方法	個人レポート(講義を通して得た成果, グループで担った役割と成果, 自分の活動記録)の内容を60点満点, 授業中の質疑討論の内容等を40点満点で評価して, 60点以上を合格(90点以上:秀, 80-89点:優, 70-79点:良, 60-69点:可)とする。
学習上の助言	大学院における専門的知識・技術の修得が言うまでもなく教育課程の中核を形成するが, 一方で, 現在の学問体系によって21世紀の諸課題を解決に導くことには限界があり, 分野横断的な新領域への挑戦が求められている。また, そのような挑戦を支えるのは, 物事の本質について深く考えるための高度な教養としての科学リテラシーである。本授業を通して, 多面的視野と学際的思考力を涵養する一助にしてほしい。
キーワード	多面的視野, 学際的な思考力, 分野横断
備考	特に, 各テーマごとにレポートを作成する際、グループ全体で調査結果をまとめること。

授業の内容	文系や理系の区別なく、21世紀の人間社会を考える基盤として生命と感性の素養を深めることによって、根源的視野と俯瞰的視野の涵養を図る。専門が異なる学生間の意見交換やグループワークを通して、分野横断的な思考力やコミュニケーション能力の伸張を図る。
授業の達成目標	大学院では、専門的知識・技術の修得が言うまでもなく教育課程の中核を形成するが、一方で、現在の学問体系によって21世紀の諸課題を解決に導くことには限界があり、境界領域の垣根を低くした新領域への挑戦が求められている。また、そのような挑戦を支えるのは、物事の本質について深く考えるための高度な教養としての科学リテラシーである。そこで、本授業では、歴史を踏まえながら私たち「ヒト」とは何かを基盤にして、学際的思考力を養成することを目的とする。
学習教育目標との関連	地域創生科学研究科のDPでは、“学際的な幅広い思考力と実践力を修得”、“主体的な行動力を修得”、“俯瞰力、協働性やコミュニケーション能力を修得”を掲げており、講義(「生命とは何か：ヒトはどのように進化してきたか」、「人間生活とオプティクス技術」、「感性と表現の科学」)から学際的思考力を身に付けるとともに、グループワークを通じて多様な実践力(コミュニケーション能力、協働性、異分野領域への関心・応用力、など)を養成する。
前提とする知識	学部学生時代に学んだ科目全般の知識
関連科目	「地域創生のための社会デザイン&イノベーション」、「グローバルな視座を養う」
授業の具体的な進め方	全学生を専門の区別なくグループ化(5名～10名)し、2日間を1つのパッケージとして100名程度の大グループで計4回実施する。人・ヒトに焦点を当てた生命科学や感性情報科学に関する講義を行い、この内容についてグループ単位の意見交換や提示された課題に対するグループワークを行う。オリエンテーションで提示する課題について、それぞれの学生が自分の考え方や関連する統計等の資料を“事前調査個人シート”に纏めて、グループワークに参加する。そして、グループごとの討論とグループワークを通して、各グループの考えをレポートにまとめ、各テーマの最後にはプレゼンテーションを行い、全体討論を実施する。
授業計画	(第1回)オリエンテーション(グループ分け(5～10名)、本講義の趣旨説明、講義の実施・評価方法など)。第2回目以降の各テーマについて課題を与え、事前調査個人シートについて説明：松田 勝、児玉 豊 (第2回)講義「生命とは何か、ヒトはどのように進化してきたのか」：山根健治 (第3回)グループワーク(課題に対して、講義と事前調査個人シートを踏まえてグループで考察を深め纏める)：鈴木智大、宮川一志 (第4回)講義「人間生活とオプティクス技術」：湯上 登 (第5回)グループワーク(課題に対して、講義と事前調査個人シートを踏まえてグループで考察を深め纏める)：鈴木智大、宮川一志 (第6回)講義「感性と表現の科学」：長谷川光司 (第7回)グループワーク(課題に対して、講義と事前調査個人シートを踏まえてグループで考察を深め纏める)：鈴木智大、宮川一志 (第8回)全体討論とまとめ及びレポート提出：松田 勝、児玉 豊
教科書参考書等	教科書や参考書は指定しないが、特に事前の調査で各テーマについての調査結果をまとめておくこと。他に必要な資料があれば当日配布する。
成績評価の方法	事前調査個人シートを30点満点、グループレポートを30点満点、グループワークでの討議内容等を20点満点、プレゼンテーションの内容を20点満点で評価して、60点以上を合格(90点以上：秀、80-89点：優、70-79点：良、60-69点：可)とする。
学習上の助言	大学院における専門的知識・技術の修得が言うまでもなく教育課程の中核を形成するが、一方で、現在の学問体系によって21世紀の諸課題を解決に導くことには限界があり、分野横断的な新領域への挑戦が求められている。また、そのような挑戦を支えるのは、物事の本質について深く考えるための高度な教養としての科学リテラシーである。本授業を通して、根源的視野と俯瞰的視野の涵養を図る一助にしてほしい。
キーワード	根源的視野、俯瞰的視野、コミュニケーション能力
備考	本学の教育資源として工農総合科学専攻に農学系、生物系、感性工学系を有する特長を活かしてこの科目を実施する。



授業の内容	21世紀の人間社会をとりまく諸課題についてグローバル、ローカルの両視点から深くかつ学際的に考えるために文・理を問わず必要な高度な知的基盤の形成を見据え、多岐な分野にわたる社会的課題に対応するためのリテラシーと発信力を涵養する。 具体的には、「授業計画」に示すトピック・内容に沿って、グローバル社会と地域の政策、文化、生活等のかかわりに関する問題を適確に理解し思考を深めるための導入的講義等を行う。
授業の達成目標	グローバルリーダーの基盤として、地域デザイン科学と国際学の素養を身につける。
学習教育目標との関連	「授業の到達目標」の達成に必要な要素として、本研究科の学修・教育目標のうち、以下の3項目について次のような関連がある。 ○「学際的な幅広い思考力と実践力を修得」するために必要な地域及び国際社会にまたがるさまざまな人間社会の共通課題に関する理解力や問題意識を醸成し、各自の専門分野との具体的なかかわりについて論じることができるようになるための視座の獲得をはかる。 ○「多面的な連携が実践できるための俯瞰力、協働性やコミュニケーション能力を修得」するために必要な他分野・多分野の現状や課題についての概観的な知識の習得をはかる。
前提とする知識	特に前提となる知識はないが、幅広い専門性への深い関心を持ち、主体的、自立的に理解し論じようとする意欲が求められる。
関連科目	「地域創生のための社会デザイン&イノベーション」、「現代社会を見通す：生命と感性の科学」
授業の具体的な進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目は、「授業計画」にしたがい、テーマごとのオムニバス方式で行う。</li> <li>・トピックにより、講義や質疑応答等を英語で行う。</li> <li>・各回の担当教員の指示により、事前の指示・課題、成果物提出、小テスト等が課される場合がある。</li> </ul>
授業計画	<p>(第1回) グローバル化とローカルガバナンス：中村祐司 概要：グローバルな課題と国内の諸課題の解決というローカルなガバナンス政策との関係を行政学の視点から理解する。</p> <p>(第2回) アグリビジネス：齋藤 潔 概要：農業ビジネスのモデルを解き明かすためのツールを学ぶとともに、コミュニティビジネスやソーシャルビジネスなどニュービジネスの動向を理解する。(英語により行う)</p> <p>(第3回) 国際規格ISO：藤本郷史 概要：国際規格ISOの制定プロセスを学び、工学技術等の国際的普及と運用を目的とした国際標準化についての理解を深める。</p> <p>(第4回) 国際的なキャリア開発：山岡 暁、藤倉修一 概要：国際的に通用するプロジェクトマネジャーやエンジニアとなるために必要な知識・技法・ツールを学ぶ。</p> <p>(第5回) グローバル・エリアスタディーズ導入：重田康博 概要：政治・経済・社会の領域で地球規模で発生する諸問題を理解し、分析する方法を具体的な事例とともに学ぶ。</p> <p>(第6回) 多文化理解・異文化理解：アンドリュー ライマン 概要：文化やコミュニケーションに関する国内外のさまざまなトピックにそくして、「文化とアイデンティティ」がどのように形成され、維持されているかを国際的、多角的な視点から理解し学ぶ。(英語により行う)</p> <p>(第7回) クリティカル・シンキング：バーバラ モリソン 概要：現代社会の様々な課題に対する健全な批判的思考のあり方を客観的に理解し身につける。(英語により行う)</p> <p>(第8回) ライフマネジメント：小宮秀明、赤塚朋子 概要：人間の発達・成長を踏まえ、生活・家族経営や健康などの観点から社会との関係性を理解する手法を理解し学ぶ。</p>
教科書参考書等	共通の教科書や参考書は指定しない。必要な資料は担当者より当日または事前に配布する。
成績評価の方法	最終課題として、本科目から得た観点や知見と自らの研究分野及びテーマとの関連に係るレポートの内容を60点満点、各回授業の課題等への理解度を小テスト等から40点満点で評価して、60点以上を合格(90点以上：秀、80-89点：優、70-79点：良、60-69点：可)とする。
学習上の助言	各自の目指す研究が文理を問わずどのような専門性を持つものであれ、どのような点で地域社会や国際社会、人間のあり方などに関わる問題と結びついているのかという問題意識を常に持ち、幅広い問題について深く理解し、思考・発信することができるようになることを目指してほしい。
キーワード	グローバル社会、地域社会、ローカルガバナンス、多文化、異文化、
備考	本学の教育資源として社会デザイン科学専攻に地域デザイン科学系、国際学系、教育学系を有する特長を活かしてこの科目を実施する。



授業の内容	研究室にとどまらない多様な分野の研究者・教員・実務家及び学生が自由闊達に意見交換・議論を行う「オープンゼミ」により、広い視点から専門知識への理解度を深めると共に、より高度な専門知識・技術及び学際的思考力と実践力を養成する。 具体的には、各学位プログラムが主宰する「オープンゼミ」で、多様な分野の研究者・教員・実務家及び学生が、それぞれの専門分野における先端研究の動向や、分野を取り巻く課題、或いは、各個人の研究活動・調査活動に即した分析手法や実験手法等について、意見交換・議論を行う。
授業の達成目標	多様な研究分野や研究者・教員・実務家及び学生の研究交流の場への参加と発表を通して高度な専門知識・技術及び学際的な思考力を養成し実践力を身に付ける。既存の研究領域や世代を越えて研究交流を進めることが、挑戦的領域におけるアイデア等を発想する契機になる。
学習教育目標との関連	持続可能な豊かな地域社会の創生を支える実践力を養成するために、学内外の研究者・実務者等と連携した授業科目である。特に、中核となるオープンゼミでは研究室単位よりも広い専門領域の学生、教員、実務家等が参加して、質疑、意見交換、発表を行うことから、境界領域等への知識を深めるとともに実践的な専門分野の応用力やコミュニケーション能力が養成される。
前提とする知識	特になし。
関連科目	「現代社会を見通す」「グローバルな視座を養う」
授業の具体的な進め方	通年15回のオープンゼミは基本的に隔週で開催する。オープンゼミの参加は、学生の関心、研究テーマとの関連性、指導教員の指導・助言等を参考にして弾力的に選択することができる。 なお、開催案内は1か月以上前にHP等を通じて周知する。 また、事前に社会人学生が希望する回についてはビデオを作成し、自主学修ができるものとする。
授業計画	第1・2回:専門分野の最前線…実務家や教員がプログラムに関する専門分野の先端研究の動向や現状の課題について報告し、実務家・教員・学生との意見交換・ディスカッションを行い、学際的思考力やコミュニケーション力を養成する。 第3・4・5回:学生の研究活動・調査活動の報告…学生が研究活動等を通じた成果(仮説の提示や中間纏めなどを含む)を発表又は研究課題に即した国際的動向や現場に関連する課題を報告し、実務家・教員・学生との意見交換・ディスカッションを行い、コミュニケーション力を養成する。 第6・7回:分析手法・実験手法について(現状と課題)…実務家・教員・学生が研究活動に即した分析手法や実験手法の注意点や最新情報等の話題を提供し、専門的知識・技術の実践性を高める。 第8・9回:教員の研究報告とディスカッション…教員が研究の課題設定と分析設計を中心に報告し、実務家・教員・学生との意見交換・ディスカッションを行い、学際的思考力やコミュニケーション力を養成する。 第10・11・12回:学生の研究活動・調査活動の報告…学生が研究活動等を通じた成果(仮説の提示や中間纏めなどを含む)を発表又は研究課題に即した国際的動向や現場に関連する課題を報告し、実務家・教員・学生との意見交換・ディスカッションを行い、コミュニケーション力を養成する。 第13・14回:教員の研究報告とディスカッション…教員が研究の分析結果と取り纏めを中心に報告し、実務家・教員・学生との意見交換・ディスカッションを行い、学際的思考力やコミュニケーション力を養成する。 第15回:レポートの報告とディスカッション…学生が提出したレポートの幾つかを題材にして、実務家・教員・学生との意見交換・ディスカッションを行い、学際的思考力やコミュニケーション力を養成する。
教科書参考書等	特に指定しません。講演会、セミナーなどで参考書が紹介される場合もあります。
成績評価の方法	オープンゼミでの発表を50点満点、レポート(学びの振り返り、専門分野を取り巻く境界領域・学際領域について)を50点満点で評価して、60点以上を合格(90点以上:秀, 80-89点:優, 70-79点:良, 60-69点:可)とする。
学習上の助言	参加するだけではなく、その場で積極的に発言することを期待する。認定単位以上にたくさん参加することで格段に視野が広がるはずであるため、多くのセミナーなどへの参加を推奨する。
キーワード	
備考	

**「特別研究」、「実践プロジェクト」（6単位）における倫理観の養成（必須アクティビティ）****「知と実践の倫理」（社会デザイン科学専攻）**

研究活動における盗用や捏造，データの改ざん等の不正行為が問題となっている。人間が社会性を持っていることから，研究とその成果が他者になんらかの危害などを及ぼす可能性が常に存在する。

レポート作成・論文作成・成果発表等の研究活動を行う際に，知っておくべき研究倫理について，研究計画のあり方，知的財産権，被験者の保護，利益相反，企業倫理，研究ノート，データ管理・保存，調査における注意点（個人情報など），著作権法（盗用・剽窃），適切な研究環境の保持（ハラスメントの防止など），科学技術の社会的影響等に関する事項について，主に講義により修得する。

**「研究者倫理・技術者倫理」（工農総合科学専攻）**

研究活動における盗用や捏造，データの改ざん等の不正行為が問題となっている。高度に進んだ技術，巨大な組織，複雑な構造から成り立っている現代社会における科学技術者としての立場・役割・義務などを理解・分析・判断することを学び，自らの倫理観を確立することを狙う。レポート作成・論文作成・成果発表等の研究活動を行う際に，知っておくべき研究倫理について，研究計画のあり方，知的財産権，被験者の保護，利益相反，企業倫理，研究ノート，データ管理・保存，調査における注意点（個人情報など），著作権法（盗用・剽窃），適切な研究環境の保持（ハラスメントの防止など），科学技術の社会的影響等に関する事項について，主に講義により修得する。

# 指導体制：デュアル副指導



指導体制（3名）：研究指導の資格を有する教員（Mマル合）から主指導教員1名とMマル合又は研究指導補助の資格を有する教員（M合）から副指導教員2名（第1副指導教員，第2副指導教員）の3名で構成

第1副指導教員は，専門性の質を担保する観点から，同じ学位プログラムの教員とする。

第2副指導は，境界領域や学際的な専門性をつなぐ観点から，異なる学位プログラムの教員とする。なお，工農総合科学専攻では，工学系と農学系がクロスするように教員を配置する。

◎：主指導教員と第1副指導教員 △：第2副指導教員

【社会デザイン科学専攻】

【工農総合科学専攻】

教員 プログラム	【社会デザイン科学専攻】								教員 プログラム	【工農総合科学専攻】							
	コミュニティ デザイン学	農業・農村 経済学	建築学	土木工学	農業土木 学	グローバル・ エリアスタ ディーズ	多文化共 生学	地域人間 発達支援 学		光工学	分子農学	物質環境 化学	農芸化学	機械知能 工学	情報電気 電子シス テム工学	農業生産 環境保全 学	森林生産 保全学
コミュニティ デザイン学	◎	△						△	光工学	◎	△				△		
農業・農村 経済学	△	◎			△	△			分子農学	△	◎						
建築学	△		◎	△					物質環境 化学			◎	△		△		
土木工学	△		△	◎	△				農芸化学			△	◎				
農業土木 学			△	△	◎				機械知能 工学				◎		△		
グローバル・ エリアスタ ディーズ	△	△				◎	△		情報電気 電子シス テム工学		△			◎	△	△	
多文化共 生学	△					△	◎	△	農業生産 環境保全 学					△	△	◎	
地域人間 発達支援 学	△						△	◎	森林生産 保全学					△	△	◎	



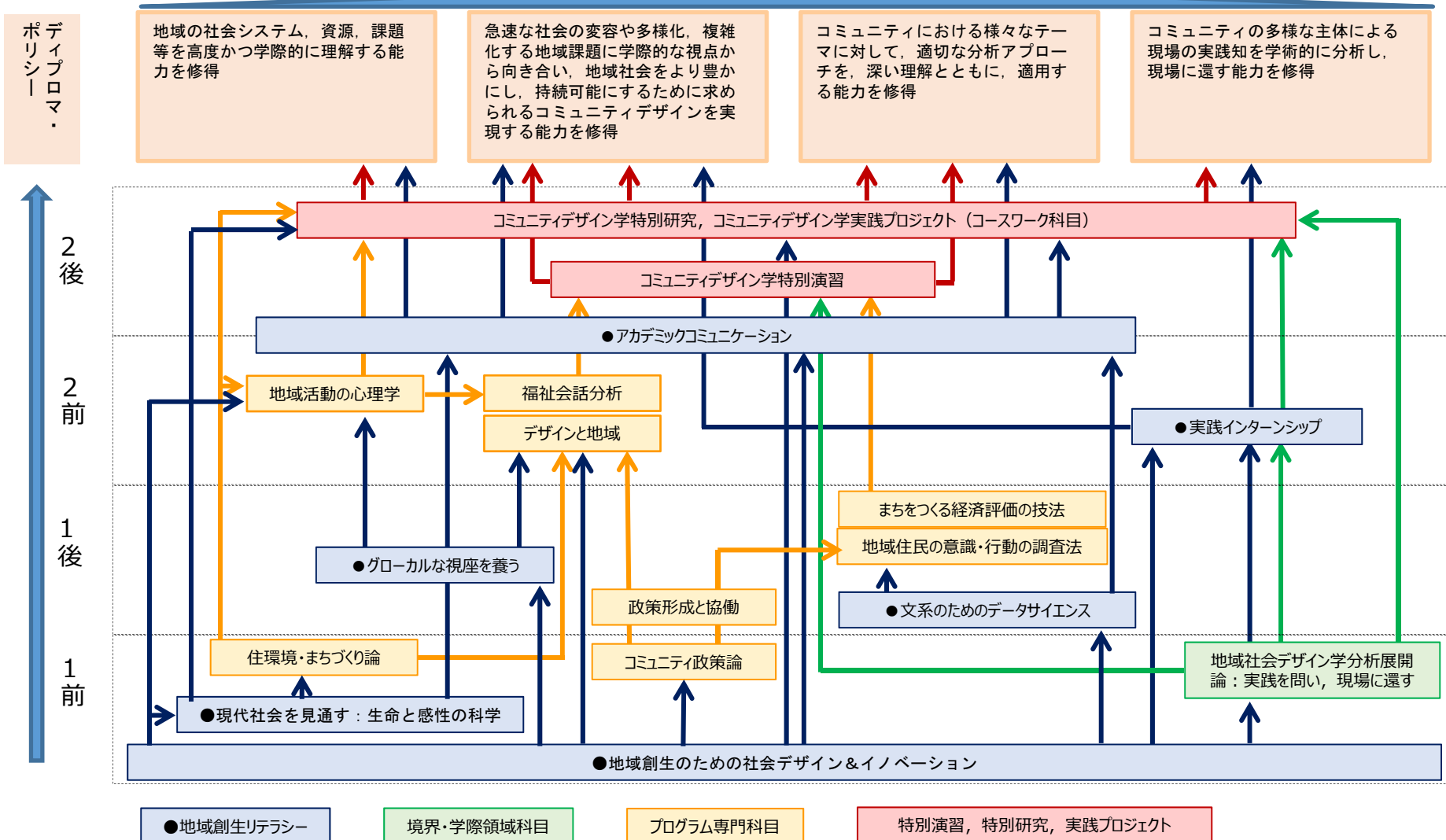
育成する人材像	養成する能力等	学年	科目名等	必要単位数
イ コ ミ ュ ニ テ ィ デ ザ イ ン 学 の 高 度 な 豊 知 識 ・ 地 域 社 会 の 創 成 に 貢 献 で き る 人 材	( 学 域 課 題 的 研 究 的 思 考 力 と 実 践 力 を 共 通 し て 養 成 ) 学 際 的 思 考 力 と プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 能 力 を 養 成 地 域 課 題 へ の 実 践 力 ( グ ロ ー バ ル な コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 能 力 , チ ャ レ ン ジ 精 神 , 協 働 力 ) を 養 成 学 位 プ ロ グ ラ ム の 専 門 性 を 養 成	1 年 次	< 持続的な社会の創生に関して、多面的視野(根源的視野、学際的視野、グローバルな視野)と学際的思考力を養成 > 地域創生のための社会デザイン&イノベーション(2), 現代社会を見通す:生命と感性の科学(1), グローカルな視座を養う(1)	4 単 位
		2 年 次	< 【理系科目群】 情報・数的処理関連及び異分野・学際関連能力を養成 > 【情報・数的処理関連】 社会現象の数理, 文系のためのデータサイエンス (各1) 【異分野・学際関連】 文系のためのオプト・バイオサイエンス入門, 食品機能科学, メカニカル・エンジニアリング, 情報電気電子システム工学概論, 博物学史 (各1) アカデミックコミュニケーション(2) 実践インターンシップ, 実践フィールドワーク, 創成工学プロジェクト演習, 国際インターンシップ, 臨地研究, International Political Economy[E], Global Management[E], Globalization and Society [E] (各2) 【境界・学際領域科目 (1単位)】 地域社会デザイン学分析展開論:実践を問い, 現場に還す(1) 【プログラム専門科目】 ● 基盤科目 (2単位以上) 政策形成と協働, コミュニティ政策論, 住環境・まちづくり論, 自然共生デザイン論, 福祉経営論(各1) ● 社会システムデザイン科目 (2単位以上) 政策分析とガバナンス(1), まちをつくる経済評価の技法(1), 経済政策論(1), 福祉社会分析(1), 地域スポーツ行政論(1), 地域社会教育論(1), 地域住民の意識・行動の調査法(1) ● 地域資源マネジメント科目 (2単位以上) 生活文化デザイン論(1), 地域活動の心理学(1), デザインと地域(1), 合奏による参加型デザイン(1), 地域食生活論(1), 農業・農村の組織マネジメント(1), 観光地理学研究(1) 他のプログラム科目の修得も認める (3単位まで) 【修士論文】 コミュニティデザイン学特別演習(4), コミュニティデザイン学特別研究(6) or 【修士論文なし】 コミュニティデザイン学特別演習(4), コミュニティデザイン学実践プロジェクト(6)	2 単 位 2 単 位 1 0 単 位 1 0 単 位
ディプロマ・ポリシー (修了認定の基準:身につける能力等)			○地域の社会システム、資源、課題等を高度かつ学際的に理解する能力を修得 ○急速な社会の変容や多様化、複雑化する地域課題に学際的な視点から向き合い、地域社会をより豊かにし、持続可能にするために求められるコミュニティデザインを実現する能力を修得 ○コミュニティにおける様々なテーマに対して、適切な分析アプローチを、深い理解とともに、適用する能力を修得 ○コミュニティの多様な主体による現場の実践知を学術的に分析し、現場に還す能力を修得	
学 位			修 士 ( 学 術 ) 学 位 取 得	

※1. 科目名の区分 : 必修科目 , 選択科目 ※2. ( )内は単位数 ※3. [E]は英語対応科目

## 育成する人材像

コミュニティデザイン学の高度な知識・技術を修得して、**コミュニティをデザインする能力**を有し、持続可能な豊かな**地域社会の創生に貢献**できる人材

### 具体例：まちづくり・・・高齢化に対応した地域社会の創造



特別演習, 特別研究, 実践プロジェクトは1~2の通年授業であるが、関連性を分かり易く示すために2年次後期のみ表示している

育成する人材像	養成する能力等	学年	科目名等	必要単位数
し農業・農村経済学高度な地域社会の創生に貢献できる人材	地域課題に対する学際的思考力を養成 学際的思考力とプレゼンテーション能力を養成 地域課題への実践力(グローバルなコミュニケーション能力、チャレンジ精神、協働力)を養成	1年次	< 持続的な社会の創生に関して、多面的視野(根源的視野、学際的視野、グローバルな視野)と学際的思考力を養成 > 地域創生のための社会デザイン&イノベーション(2), 現代社会を見通す:生命と感性の科学(1), グローカルな視座を養う(1)	4単位
			< 【理系科目群】 情報・数的処理関連及び異分野・学際関連能力を養成 > 【情報・数的処理関連】 社会現象の数理, 文系のためのデータサイエンス (各1) 【異分野・学際関連】 文系のためのオプト・バイオサイエンス入門, 食品機能科学, メカニカル・エンジニアリング, 情報電気電子システム工学概論, 博物学史 (各1)	2単位
	アカデミックコミュニケーション(2)		2単位	
	実践インターンシップ, 実践フィールドワーク, 創成工学プロジェクト演習, 国際インターンシップ, 臨地研究, International Political Economy [E], Global Management [E], Globalization and Society [E] (各2)		2単位	
学位プログラムの専門性を養成 ○食料・農業・農村に関する制度・政策等の在り方を説明するのに必要不可欠な学術理論を高度かつ学際的に理解する能力を養成 ○多様化する食料・農業・農村の諸問題に学際的な視点から向き合い、健康で豊かな国民生活や持続可能な社会に寄与する新しい食料・農業・農村の発展に貢献する能力を養成	2年次	【境界・学際領域科目 (1単位)】 地域社会デザイン学分析展開論:実践を問い、現場に還す(1)	10単位	
		【プログラム専門科目】 ●基盤科目 (3単位以上) 農業・農村経済学, 農政学, 農業生産組織論, 農業・農村史, 農村社会学, アグリビジネス論, 農村地理学 (各1) ●応用科目 (3単位以上) マーケティング論, ソーシャルビジネス論, 統計分析論, 環境経済学, フードシステム学 (各1) 他のプログラム科目の修得も認める (3単位まで)		
【修士論文】 農業・農村経済学特別演習(4), 農業・農村経済学特別研究(6) or 【修士論文なし】 農業・農村経済学特別演習(4), 農業・農村経済学実践プロジェクト(6)	10単位			
ディプロマ・ポリシー (修了認定の基準:身につける能力等)	○食料・農業・農村に関する制度・政策等の在り方を説明するのに必要不可欠な学術理論を高度かつ学際的に理解する能力を修得 ○多様化する食料・農業・農村の諸問題に学際的な視点から向き合い、健康で豊かな国民生活や持続可能な社会に寄与する新しい食料・農業・農村の発展に貢献する能力を修得 ○食料・農業・農村に関する様々なテーマに対して、適切な分析アプローチを、深い理解とともに、適用する能力を修得 ○食料・農業・農村の多様な主体による現場の実践知を学術的に分析し、地域の現場に還す能力を修得			
学位	修士(農学) 学位取得			

※1. 科目名の区分 : 必修科目 , 選択科目 ※2. ( )内は単位数 ※3. [E]は英語対応科目

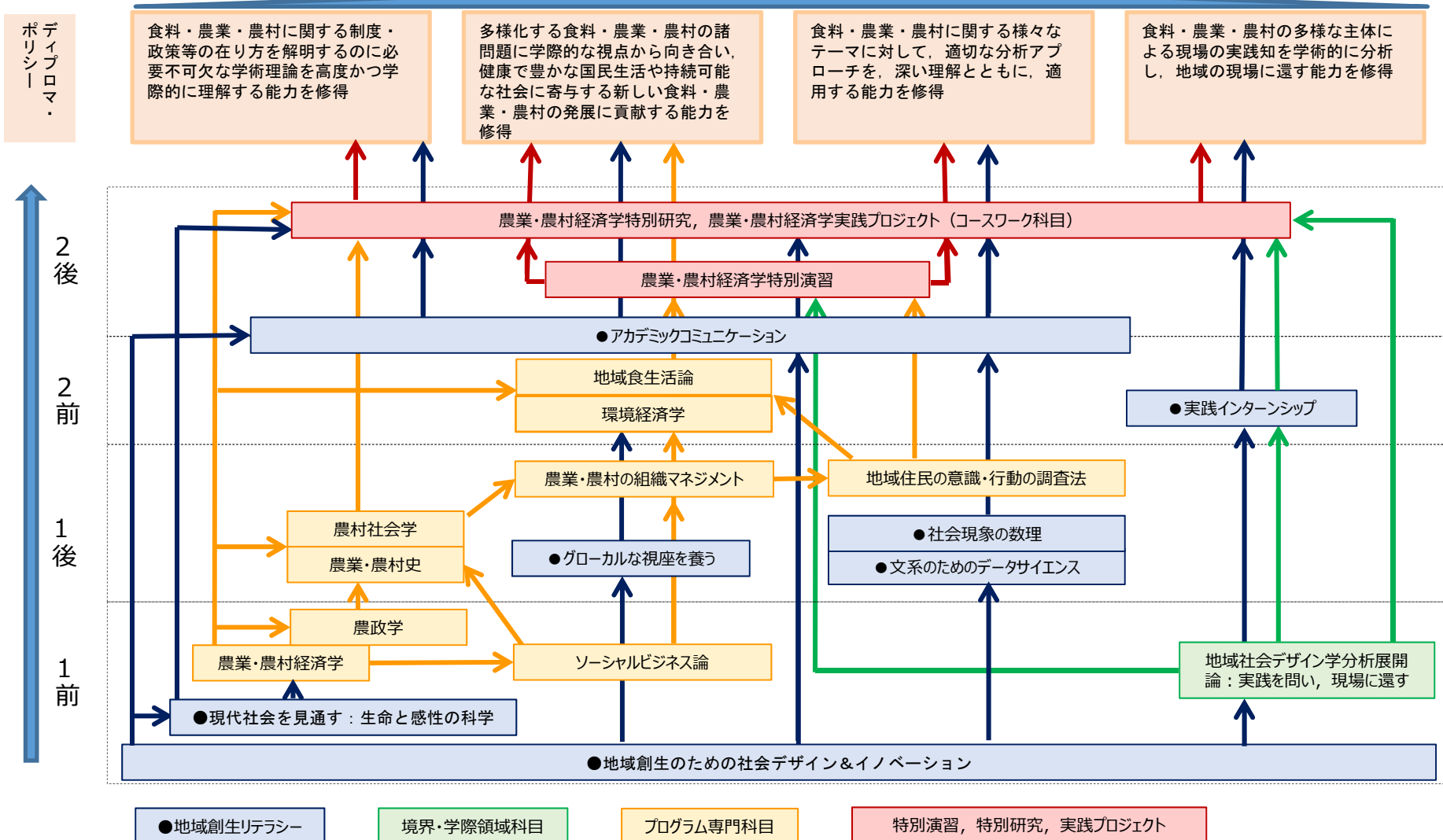


## 育成する人材像

農業・農村経済学の高度な知識・技術を修得して、**食料・農業・農村に関する社会システムをデザインする能力**を有し、持続可能な豊かな**地域社会の創生に貢献**できる人材

具体例：農業・農村再生・・・持続可能な豊かな新しい農業・農村の発展に貢献

45



特別演習, 特別研究, 実践プロジェクトは1~2の通年授業であるが, 関連性を分かり易く示すために2年次後期のみ表示している

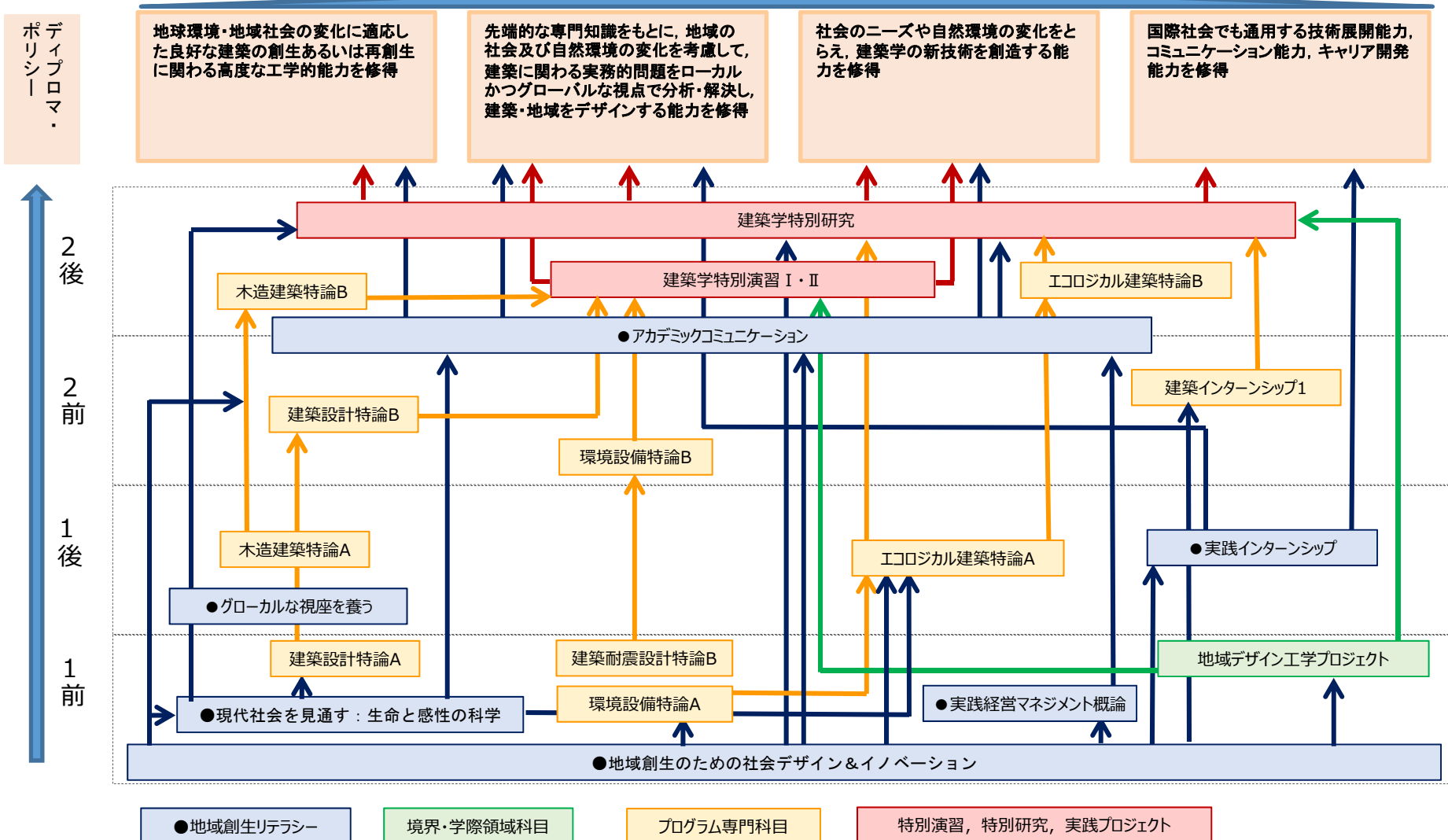
育成する人材像	養成する能力等	学年	科目名等	必要単位数	
会技建 の術学 創成者 ・の 研高 究度 者な でき るし て の技 術を 有し て 持 続 建 築 に 関 る 豊 か な 設 計 者 ・ 社	(学 地 域 課 題 を 解 決 す る た め に 必 要 な 研 究 的 思 考 力 と 実 践 力 を 養 成 す る た め に 必 要 な 学 際 的 思 考 力 と プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 能 力 を 養 成 す る た め に 必 要 な 地 域 課 題 へ の 実 践 力 ( グ ロ ー バ ル な コ ミュ ニ ケ ー シ ョ ン 能 力 、 チ ャ レ ン ジ 精 神 、 協 働 力 ) を 養 成	1 年 次	<< 持続的な社会の創生に関して、多面的視野(根源的視野、学際的視野、グローバルな視野)と学際的思考力を養成 >> 地域創生のための社会デザイン&イノベーション(2)、現代社会を見通す：生命と感性の科学(1)、グローバルな視座を養う(1) << 【文系科目群】 地域デザイン、グローバル、多文化共生関連の能力を養成 >> 【地域デザイン関連】 実践経営マネジメント概論、農業・農村の組織マネジメント、観光地理学研究 (各1) 等 【グローバル関連】 防災と国際協力 I [E]、環境問題とガバナンス I [E]、人間の安全保障と国連 I [E] (各1) 等 【多文化共生関連】 ジェンダーとアイデンティティ I [E]、多文化教育研究 I [E]、シティズンシップ教育 I [E] (各1) 等 アカデミックコミュニケーション(2) 実践インターンシップ、実践フィールドワーク、創成工学プロジェクト演習、国際インターンシップ、臨地研究、International Political Economy [E]、Global Management [E]、Globalization and Society [E] (各2)	4 単 位  2 単 位  2 単 位  2 単 位	地 域 創 生 リ テ ラ シー ( 1 0 単 位 )
	学 位 プ ロ グ ラ ム の 専 門 性 を 養 成 す る た め に 必 要 な 地 球 環 境 ・ 地 域 社 会 の 変 化 に 適 応 し た 良 好 な 建 築 の 創 生 あ る い は 再 創 生 に 関 わ る 高 度 な 工 学 的 能 力 を 養 成 す る た め に 必 要 な 先 端 的 な 専 門 知 識 を も と に 、 地 域 の 社 会 及 び 自 然 環 境 の 変 化 を 考 慮 し て 、 建 築 に 関 わ る 実 務 的 問 題 を ロ ー カ ル か つ グ ロ ー バ ル な 視 点 で 分 析 ・ 解 決 し 、 建 築 ・ 地 域 を デ ザ イ ン す る 能 力 を 養 成	2 年 次	【境界・学際領域科目】 地域デザイン工学プロジェクト(1)、地域デザイン工学インターンシップ(1)、 Communication Skills for Engineers[E](1) 【土木工学プログラム及び農業土木学プログラムの専門科目 (特別演習・特別研究を除く)】 1 単位以上 【プログラム専門科目 (7 単位以上)】 建築構造学特論A・B、建築耐震設計特論A・B、建築構造解析特論A・B、建築構造材料特論A・B、木造建築特論A・B、 既存建築物分析学特論A・B、エコロジカル建築特論A・B、環境設備特論A・B、建築設計特論A・B、建築計画特論A・B、 都市解析特論A・B、建築インターンシップ I (各1)、建築インターンシップ II (2)、建築インターンシップ III (3)、 建築インターンシップ IV・V・VI (各2)、建築設計演習 I・II (各2) 【修士論文】 建築学特別演習 I・II (各2)、 建築学特別研究(6) or 【修士設計】 建築学特別演習 I・II (各2)、 建築学特別設計(6)	1 0 単 位  1 0 単 位	プ ロ グ ラ ム 科 目 ( 2 0 単 位 )
	デ ィ プ ロ マ ・ ポ リ シー ( 修 了 認 定 の 基 準 ： 身 に つ け る 能 力 等 )	○地球環境・地域社会の変化に適応した良好な建築の創生あるいは再創生に関わる高度な工学的能力を修得 ○先端的な専門知識をもとに、地域の社会及び自然環境の変化を考慮して、建築に関わる実務的問題をローカルかつグローバルな視点で分析・解決し、建築・地域をデザインする能力を修得 ○社会のニーズや自然環境の変化をとらえ、建築学の新技术を創造する能力を修得 ○国際社会でも通用する技術展開能力、コミュニケーション能力、キャリア開発能力を修得			
	学 位	修 士 ( 工 学 ) 学 位 取 得			

※1. 科目名の区分 : 必修科目 , 選択必修科目 , 選択科目 ※2. ( )内は単位数 ※3. [E]は英語対応科目

育成する人材像

建築学の高度な知識・技術を修得して、**建築に関する設計者・技術者・研究者としての能力**を有し、持続可能な豊かな**地域社会の創生に貢献**できる人材

## 具体例：環境建築を創造する建築技術者



特別演習、特別研究、実践プロジェクトは1～2の通年授業であるが、関連性を分かり易く示すために2年次後期のみ表示している



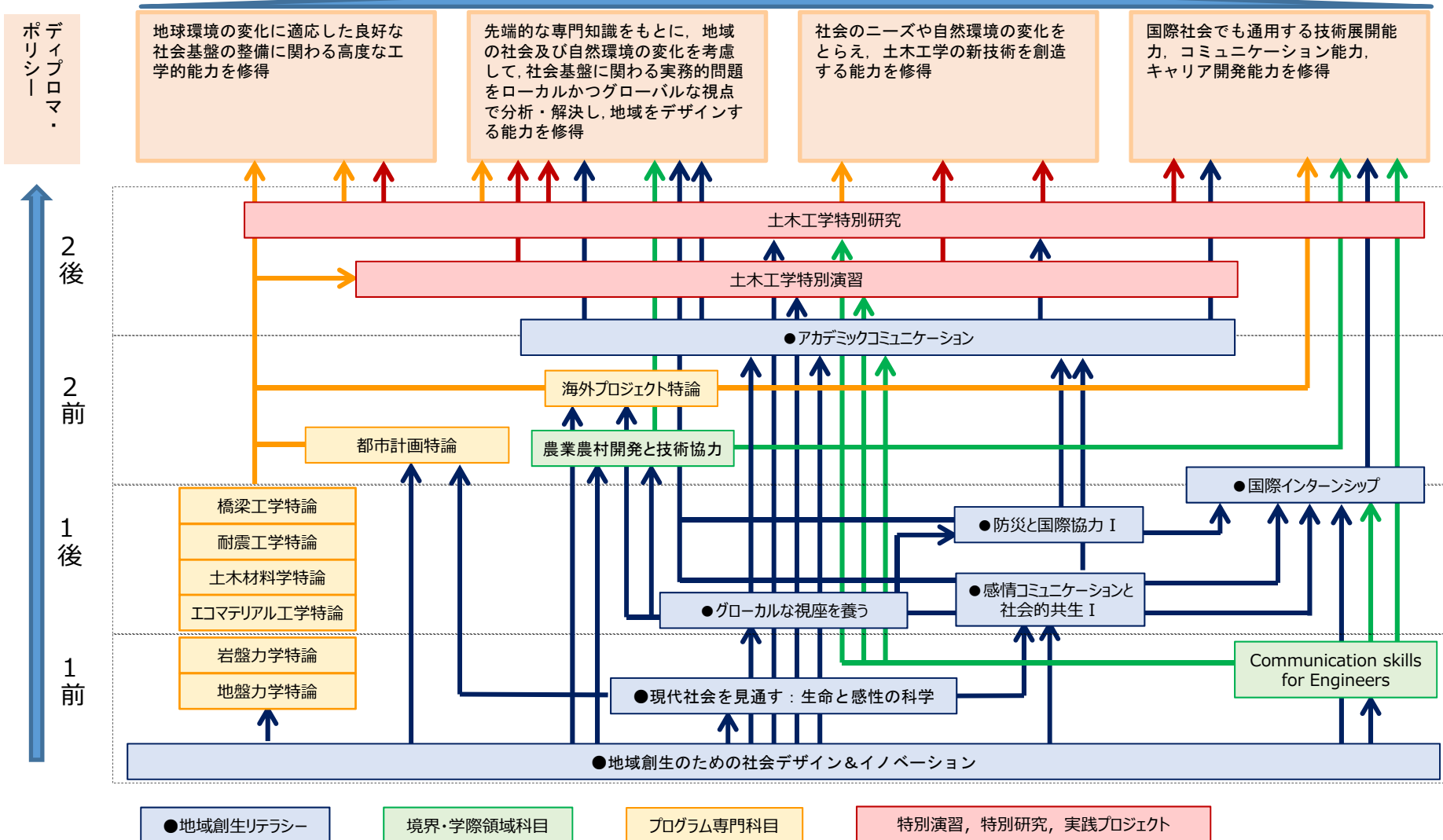
育成する人材像	養成する能力等	学年	科目名等	必要単位数	
土木工学の高度な工学技術能力を有し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献できる人材	地域課題に対する学際的思考力を養成  学際的思考力とプレゼンテーション能力を養成  地域課題への実践力(グローバルなコミュニケーション能力、チャレンジ精神、協働能力)を養成	1年次	<< 持続的な社会の創生に関して、多面的視野(根源的視野、学際的視野、グローバルな視野)と学際的思考力を養成 >>  地域創生のための社会デザイン&イノベーション(2), 現代社会を見通す:生命と感性の科学(1), グローカルな視座を養う(1)	4単位	地域創生リテラシー(10単位)
			<< 【文系科目群】 地域デザイン, グローバル, 多文化共生関連の能力を養成 >>  【地域デザイン関連】 実践経営マネジメント概論, 農業・農村の組織マネジメント, 観光地理学研究(各1)等 【グローバル関連】 防災と国際協力 I [E], 環境問題とガバナンス I [E], 人間の安全保障と国連 I [E] (各1)等 【多文化共生関連】 ジェンダーとアイデンティティ I [E], 多文化教育研究 I [E], シティズンシップ教育 I [E] (各1)等	2単位	
アカデミックコミュニケーション(2)	2単位				
実践インターンシップ, 実践フィールドワーク, 創成工学プロジェクト演習, 国際インターンシップ, 臨地研究, International Political Economy [E], Global Management [E], Globalization and Society [E] (各2)	2単位				
学位プログラムの専門性を養成	○地球環境の変化に適応した良好な社会基盤の整備に関わる高度な工学的能力を養成  ○先端的な専門知識をもとに、地域の社会及び自然環境の変化を考慮して、社会基盤に関わる実務的問題をローカルかつグローバルな視点で分析・解決し、地域をデザインする能力を養成	2年次	【境界・学際領域科目】 地域デザイン工学プロジェクト(1), 地域デザイン工学インターンシップ(1), Communication Skills for Engineers[E](1) 【建築学プログラム及び農業土木学プログラムの専門科目(特別演習・特別研究・特別設計を除く)】	1単位以上	プログラム科目(20単位)
			【プログラム専門科目(7単位以上)】 橋梁工学特論[E], 耐震工学特論[E], 岩盤力学特論[E], 地盤力学特論, 土木材料学特論, エコマテリアル工学特論, 河川工学特論[E], 海岸工学特論, 水圏環境工学特論[E], 地圏環境工学特論, 都市計画特論, 都市交通特論[E], 防災マネジメント特論, 海外プロジェクト特論[E] (各1)	7単位以上	
他のプログラム専門科目の修得も認める (2単位まで)	2単位まで				
【修士論文】 土木工学特別演習 I・II(各2), 土木工学特別研究(6)	10単位				
ディプロマ・ポリシー (修了認定の基準:身につける能力等)	○地球環境の変化に適応した良好な社会基盤の整備に関わる高度な工学的能力を修得 ○先端的な専門知識をもとに、地域の社会及び自然環境の変化を考慮して、社会基盤に関わる実務的問題をローカルかつグローバルな視点で分析・解決し、地域をデザインする能力を修得 ○社会のニーズや自然環境の変化をとらえ、土木工学の新技术を創造する能力を修得 ○国際社会でも通用する技術展開能力, コミュニケーション能力, キャリア開発能力を修得				
学位	修士(工学) 学位取得				

※1. 科目名の区分 : 必修科目 , 選択必修科目 , 選択科目 ※2. ( )内は単位数 ※3. [E]は英語対応科目

## 育成する人材像

土木工学の高度な工学技術を修得して、快適で安全・強靱な**社会基盤をデザインする能力**を有し、持続可能な豊かな**地域・国土の創生・発展に貢献**できる人材

### 具体例：グローバルに活躍する橋梁技術者



特別演習, 特別研究は1~2の通年授業であるが, 関連性を分かり易く示すために2年次後期のみ表示している

育成する人材像	養成する能力等	学年	科目名等	必要単位数	
農業土木学の高学識・技術を持可能な豊かな地域社会の創生に貢献できる人材	地域課題に対する学際的思考力を養成  学際的思考力とプレゼンテーション能力を養成  地域課題への実践力(グローバルなコミュニケーション能力, チャレンジ精神, 協働能力)を養成	1 年 次	≪ 持続的な社会の創生に関して、多面的視野(根源的視野, 学際的視野, グローカルな視野)と学際的思考力を養成 ≫  地域創生のための社会デザイン&イノベーション(2), 現代社会を見通す:生命と感性の科学(1), グローカルな視座を養う(1)	4 単 位	地域創生リテラシー(10単位)
			≪ 【文系科目群】 地域デザイン, グローバル, 多文化共生関連の能力を養成 ≫  【地域デザイン関連】 実践経営マネジメント概論, 農業・農村の組織マネジメント, 観光地理学研究(各1)等 【グローバル関連】 防災と国際協力 I [E], 環境問題とガバナンス I [E], 人間の安全保障と国連 I [E] (各1)等 【多文化共生関連】 ジェンダーとアイデンティティ I [E], 多文化教育研究 I [E], シティズンシップ教育 I [E] (各1)等	2 単 位	
アカデミックコミュニケーション(2)	2 単 位				
実践インターンシップ, 実践フィールドワーク, 創成工学プロジェクト演習, 国際インターンシップ, 臨地研究, International Political Economy [E], Global Management [E], Globalization and Society [E] (各2)	2 単 位				
	学位プログラムの専門性を養成  ○地球環境の変化に適応した良好な農業農村基盤の整備に関わる高度な工学的能力を養成  ○先端的な専門知識をもとに、地域の社会及び自然環境の変化を考慮して、農業農村基盤に関わる実務的問題をローカルかつグローバルな視点で分析・解決し、地域をデザインする能力を養成	2 年 次	【境界・学際領域科目】 地域デザイン工学プロジェクト(1), 地域デザイン工学インターンシップ(1), Communication Skills for Engineers[E](1) 【建築学プログラム及び土木工学プログラムの専門科目(特別演習・特別研究・特別設計を除く)】	1 0 単 位	プログラム科目(20単位)
			【プログラム専門科目(7単位以上)】 環境数理A・B, 土壌環境物理学A・B[E], 農地保全学, 農業水理学, 応用田園生態工学A・B, 地域マネジメントA・B, 農業農村開発と技術協力(各1)  他のプログラム科目の修得も認める(2単位まで)	1 0 単 位	
ディプロマ・ポリシー (修了認定の基準:身につける能力等)		○地球環境の変化に適応した良好な農業農村基盤の整備に関わる高度な工学的能力を修得 ○先端的な専門知識をもとに、地域の社会及び自然環境の変化を考慮して、農業農村基盤に関わる実務的問題をローカルかつグローバルな視点で分析・解決し、地域をデザインする能力を修得 ○社会のニーズや自然環境の変化をとらえ、農業土木学の新技术を創造する能力を修得 ○国際社会でも通用する技術展開能力, コミュニケーション能力, キャリア開発能力を修得			
学 位	修 士 ( 農 学 ) 学 位 取 得				

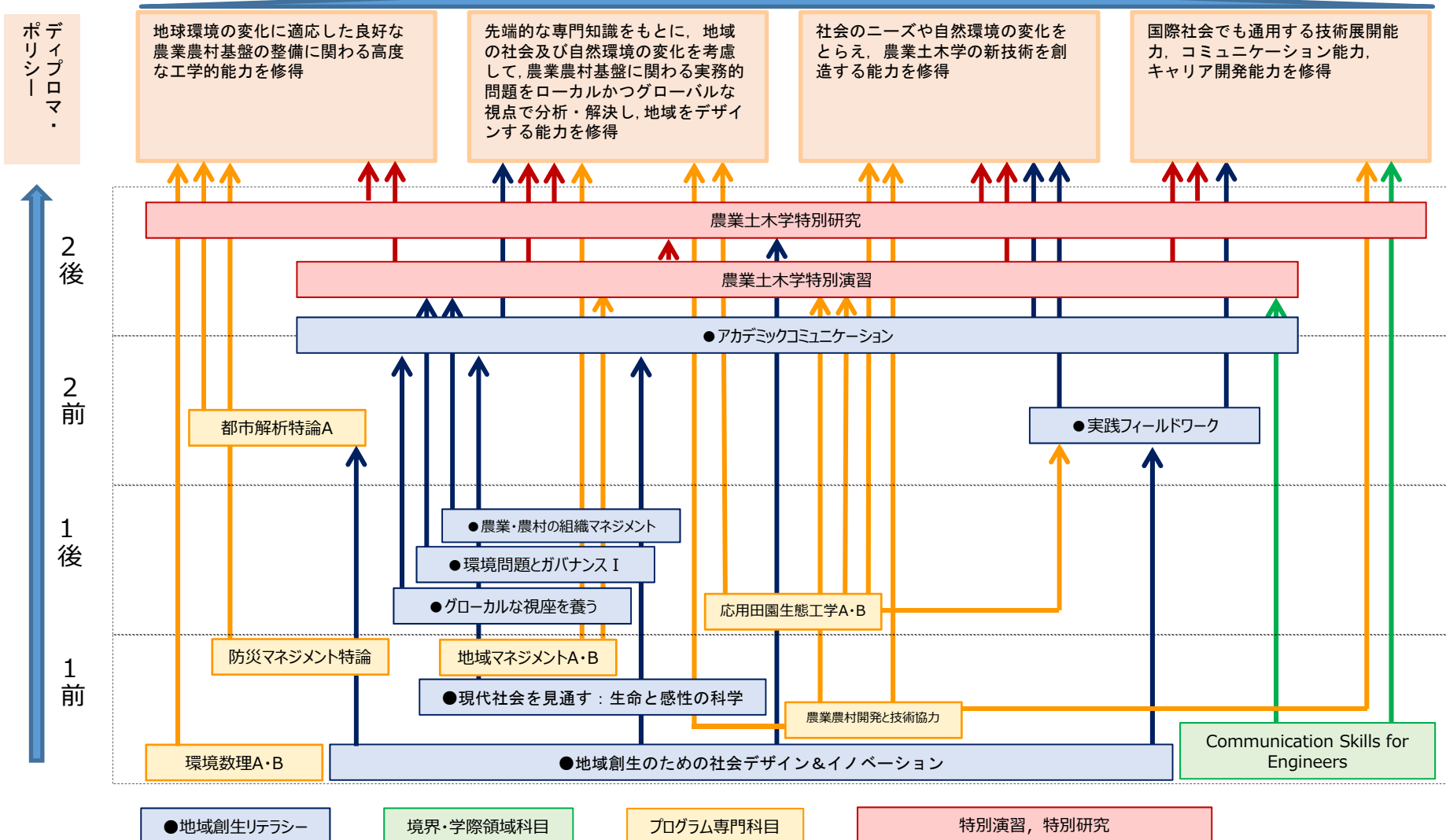
※1. 科目名の区分 : 必修科目 , 選択必修科目 , 選択科目 ※2. ( )内は単位数 ※3. [E]は英語対応科目



## 育成する人材像

農業土木の高度な知識・技術を修得して、**良好な農業農村基盤をデザインする能力**を有し、**持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献**できる人材

### 具体例： 緑豊かな地域環境を再創生するプランナー



特別演習，特別研究は1～2の通年授業であるが，関連性を分かり易く示すために2年次後期のみ表示している

育成する人材像	養成する能力等	学年	科目名等	必要単位数	
<p>日本及び世界の各地で豊かな生活している社会の諸問題を理解・解決するための高度な能力を有し、技術を持てる可能性を豊かにしている社会の創生に貢献できる人材</p>	<p>(学域) 地域課題に対する学際的思考力を養成 学際的思考力とプレゼンテーション能力を養成 地域課題への実践力(グローバルなコミュニケーション能力、チャレンジ精神、協働能力)を養成</p>	1年次	<p>≪ 持続的な社会の創生に関して、多面的視野(根源的視野、学際的視野、グローバルな視野)と学際的思考力を養成 ≫</p> <p>地域創生のための社会デザイン&amp;イノベーション(2), 現代社会を見通す:生命と感性の科学(1), グローバルな視座を養う(1)</p> <p>≪ 【理系科目群】 情報・数的処理関連及び異分野・学際関連能力を養成 ≫</p> <p>【情報・数的処理関連】 社会現象の数理、文系のためのデータサイエンス (各1) 【異分野・学際関連】 文系のためのオプト・バイオサイエンス入門、食品機能科学、メカニカル・エンジニアリング、情報電気電子システム工学概論、博物学史 (各1)</p> <p>アカデミックコミュニケーション(2)</p> <p>実践インターンシップ、実践フィールドワーク、創成工学プロジェクト演習、国際インターンシップ、臨地研究、International Political Economy [E], Global Management [E], Globalization and Society [E] (各2)</p>	4単位 2単位 2単位 2単位	<p>地域創生リテラシー(10単位)</p> <p>プログラム科目(20単位)</p>
		2年次	<p>【境界・学際領域科目(1単位)】 グローバル・エリアスタディーズ総合講義(1)</p> <p>【プログラム専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●基盤科目(2単位以上) 貧困問題と国際協力 I [E], 防災と国際協力 I [E], 環境問題とガバナンス I [E], 情報ネットワークと技術 I, 人間の安全保障と国連 I [E], 国際人権保障と平和構築 I [E], Globalization and Project Management I [E], グローバル教育と開発教育 I [E], 国際NPO起業とその実践 I [E] (各1)</li> <li>●グローバル・スタディーズ科目(2単位以上) 貧困問題と国際協力 II [E], 防災と国際協力 II [E], 環境問題とガバナンス II [E], 情報ネットワークと技術 II, 人間の安全保障と国連 II [E], 国際人権保障と平和構築 II [E], Globalization and Project Management II [E], グローバル教育と開発教育 II [E], 国際NPO起業とその実践 II [E] (各1)</li> <li>●エリアスタディーズ科目(4単位以上) タイの開発と地域社会 I・II, 東アジアの国際政治と歴史 I・II [E], 東アジアの歴史と文化 I・II, 日本の自然と地域生活 I・II, アメリカの経済と金融 I・II, ラテンアメリカの経済と社会 I・II [E], 中東地域の政治と社会 I・II [E], 東アフリカの社会開発と文化 I・II [E], (各1) 特別臨地研究 I [E](2)※, 特別臨地研究 II [E](2)※ 【※「修士論文なし」の場合は選択必修(2単位以上)】</li> </ul> <p>【修士論文】 グローバル・エリアスタディーズ特別演習(4), グローバル・エリアスタディーズ特別研究(6)</p> <p>or</p> <p>【修士論文なし】 グローバル・エリアスタディーズ特別演習(4), グローバル・エリアスタディーズ実践プロジェクト(6)</p>	10単位 10単位	
ディプロマ・ポリシー (修了認定の基準:身につける能力等)			<p>○国際開発や国際協力等に関する高度な専門知識・技術を身に付けて、グローバルな諸問題を理解し解決する能力を修得</p> <p>○世界各地の政治・社会の多様性等に関する高度な教養を身に付けて、課題に対する学際的な思考能力を修得</p> <p>○日本及び世界各国の諸問題・諸課題に対して、グローバルな観点から問題解決を実践するために具体的な情報収集、調査・分析する能力を修得</p> <p>○グローバルな実務に対応可能な企画・提案能力とコミュニケーション能力を修得</p>		
学位			修士(国際学) 学位取得		

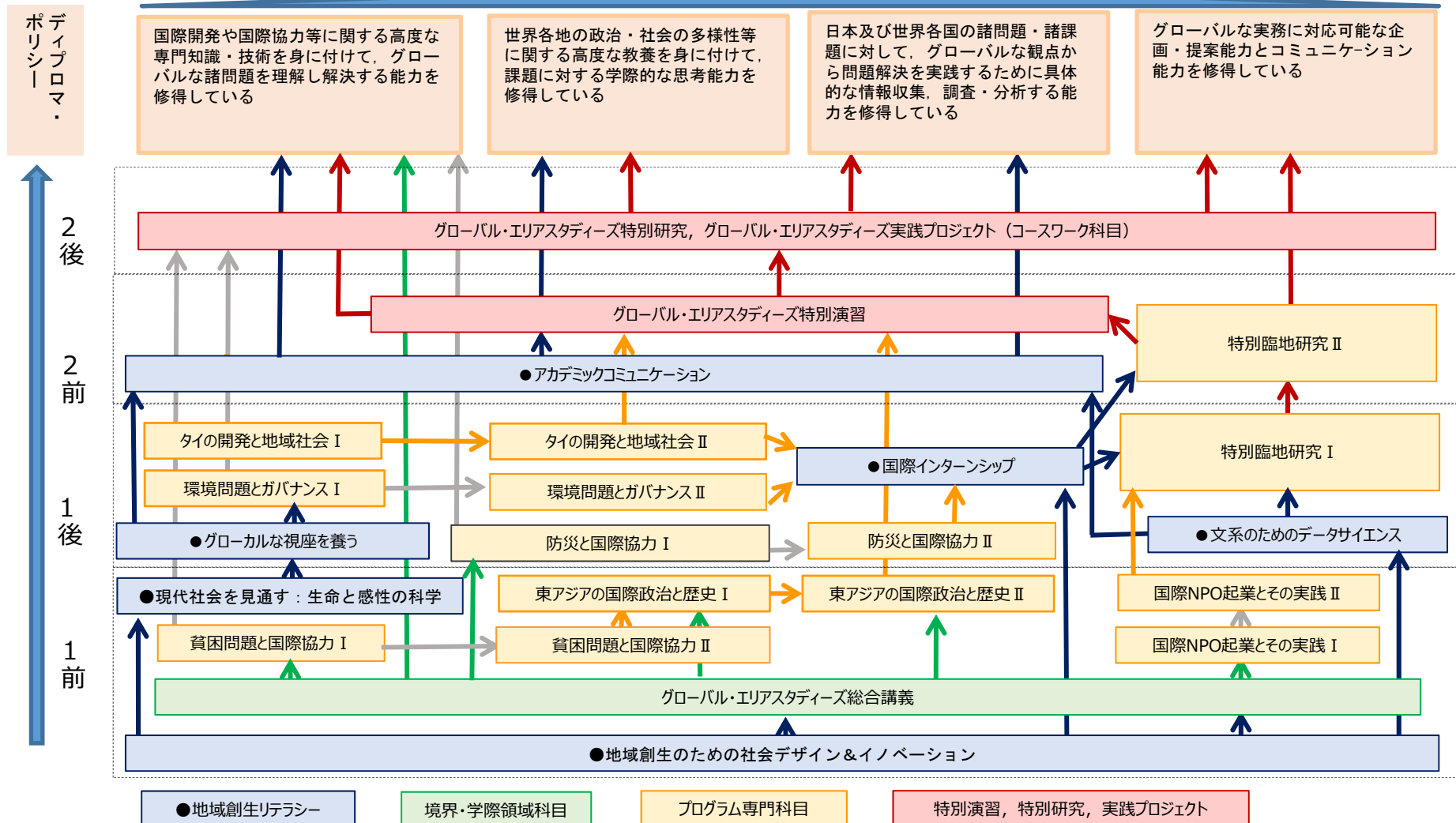
※1. 科目名の区分 : 必修科目 , 選択科目 ※2. ( )内は単位数 ※3. [E]は英語対応科目

## 育成する人材像

日本及び世界各地で発生している諸問題を理解・解決するための高度な知識・技術を修得して、**グローバルな観点から社会をデザインする能力**を有し、持続可能な豊かな**地域社会の創生に貢献**できる人材

### 具体例：東南アジアにおける災害復興への日本の関与のあり方について研究

53



特別演習, 特別研究, 実践プロジェクトは1~2の通年授業であるが, 関連性を分かり易く示すために2年次後期のみ表示している

育成する人材像	養成する能力等	学年	科目名等	必要単位数	
<p>多文化共生学に関する能力・価値観を有し、立脚する高度な豊かな知識が、地域社会の多文化共生に貢献できる人材</p>	<p>（学域的課題を解決する実践力と学際的思考力） 地域課題に対する学際的思考力を養成 学際的思考力とプレゼンテーション能力を養成 地域課題への実践力（グローバルなコミュニケーション能力、チャレンジ精神、協働能力）を養成</p>	1年次	<p>≪ 持続的な社会の創生に関して、多面的視野(根源的視野, 学際的視野, グローカルな視野)と学際的思考力の基礎を養成 ≫</p> <p>地域創生のための社会デザイン&amp;イノベーション(2), 現代社会を見通す: 生命と感性の科学(1), グローカルな視座を養う(1)</p> <p>≪ 【理系科目群】 情報・数的処理関連及び異分野・学際関連能力を養成 ≫</p> <p>【情報・数的処理関連】 社会現象の数理, 文系のためのデータサイエンス (各1) 【異分野・学際関連】 文系のためのオプト・バイオサイエンス入門, 食品機能科学, メカニカル・エンジニアリング, 情報電気電子システム工学概論, 博物学史 (各1)</p> <p>アカデミックコミュニケーション(2)</p> <p>実践インターンシップ, 実践フィールドワーク, 創成工学プロジェクト演習, 国際インターンシップ, 臨地研究, International Political Economy [E], Global Management [E], Globalization and Society [E] (各2)</p>	4単位 2単位 2単位 2単位	<p>地域創生リテラシー(10単位)</p> <p>プログラム科目(20単位)</p>
		2年次	<p>【境界・学際領域科目(2単位)】 共生社会論(2)</p> <p>【プログラム専門科目】</p> <p>●基盤科目(2単位以上) 現代英語研究Ⅰ[E], 感情コミュニケーションと社会的共生Ⅰ[E], 日本表象文化研究Ⅰ, グローバル化と国際的な人の移動Ⅰ[E], 日本語論述表現Ⅰ[E], 多文化教育研究Ⅰ[E] (各1)</p> <p>●応用科目(4単位以上) 現代英語研究Ⅱ[E], 感情コミュニケーションと社会的共生Ⅱ[E], 日本表象文化研究Ⅱ, グローバル化と国際的な人の移動Ⅱ[E], 日本語論述表現Ⅱ[E], 多文化教育研究Ⅱ[E], 国際交流と日本語教育Ⅰ・Ⅱ[E], アメリカ文化研究Ⅰ・Ⅱ[E], イギリス文化研究Ⅰ・Ⅱ[E], フランス思想・文化研究Ⅰ・Ⅱ[E], 西洋史研究Ⅰ・Ⅱ, 性と人権論Ⅰ・Ⅱ, 東アジア比較文学比較文化研究Ⅰ・Ⅱ, 人権と法Ⅰ・Ⅱ[E], ジェンダーとアイデンティティⅠ・Ⅱ[E], シティズンシップ教育Ⅰ・Ⅱ[E], 日本文学研究Ⅰ・Ⅱ, 日本文化研究Ⅰ・Ⅱ, 文化人類学研究Ⅰ・Ⅱ[E], 言語普遍性と英文法研究Ⅰ・Ⅱ[E], 英語音声学Ⅰ・Ⅱ, 英語学Ⅰ・Ⅱ, 植民地教育史Ⅰ・Ⅱ, 外国にルーツをもつ子ども・青年と教育Ⅰ・Ⅱ[E], 芸術学研究Ⅰ・Ⅱ, 音楽創作文化研究Ⅰ・Ⅱ, 西洋近現代哲学研究Ⅰ・Ⅱ, 日本史研究Ⅰ・Ⅱ, 日本語教育学研究Ⅰ・Ⅱ, ヨーロッパ表象文化研究Ⅰ・Ⅱ, Comparative Study of Contemporary Cultures Ⅰ・Ⅱ, 日本語史と日本語研究Ⅰ・Ⅱ, 古代日本語文化研究Ⅰ・Ⅱ, グローバル時代の学校教育Ⅰ・Ⅱ (各1)</p> <p>他のプログラム科目の修得も認める(2単位まで)</p> <p>【修士論文】 多文化共生学特別演習(4), 多文化共生学特別研究(6)</p> <p>or 【修士論文なし】 多文化共生学特別演習(4), 多文化共生学実践プロジェクト(6)</p>	10単位 10単位	
	<p>○多文化共生学に関する高度な専門知識・技術を身に付けて、世界様々な地域の文化的・社会的問題を理解し解決する能力を養成</p> <p>○多文化共生に関する諸課題について、調査、情報収集、分析する能力を養成</p>		<p>○多文化共生学に関する高度な専門知識・技術を身に付けて、世界様々な地域の文化的・社会的問題を理解し解決する能力を修得</p> <p>○多文化共生に関する諸課題について、調査、情報収集、分析する能力を修得</p> <p>○多文化共生に関する諸活動において活用できる学際的な思考力及び異文化間コミュニケーション能力を修得</p> <p>○複数の言語で情報を収集・発信するスキル・リテラシーを修得</p>		
	<p>学位プログラムの専門性を養成</p>		<p>修士(学術) 学位取得</p>		
	<p>ディプロマ・ポリシー (修了認定の基準: 身につける能力等)</p>				

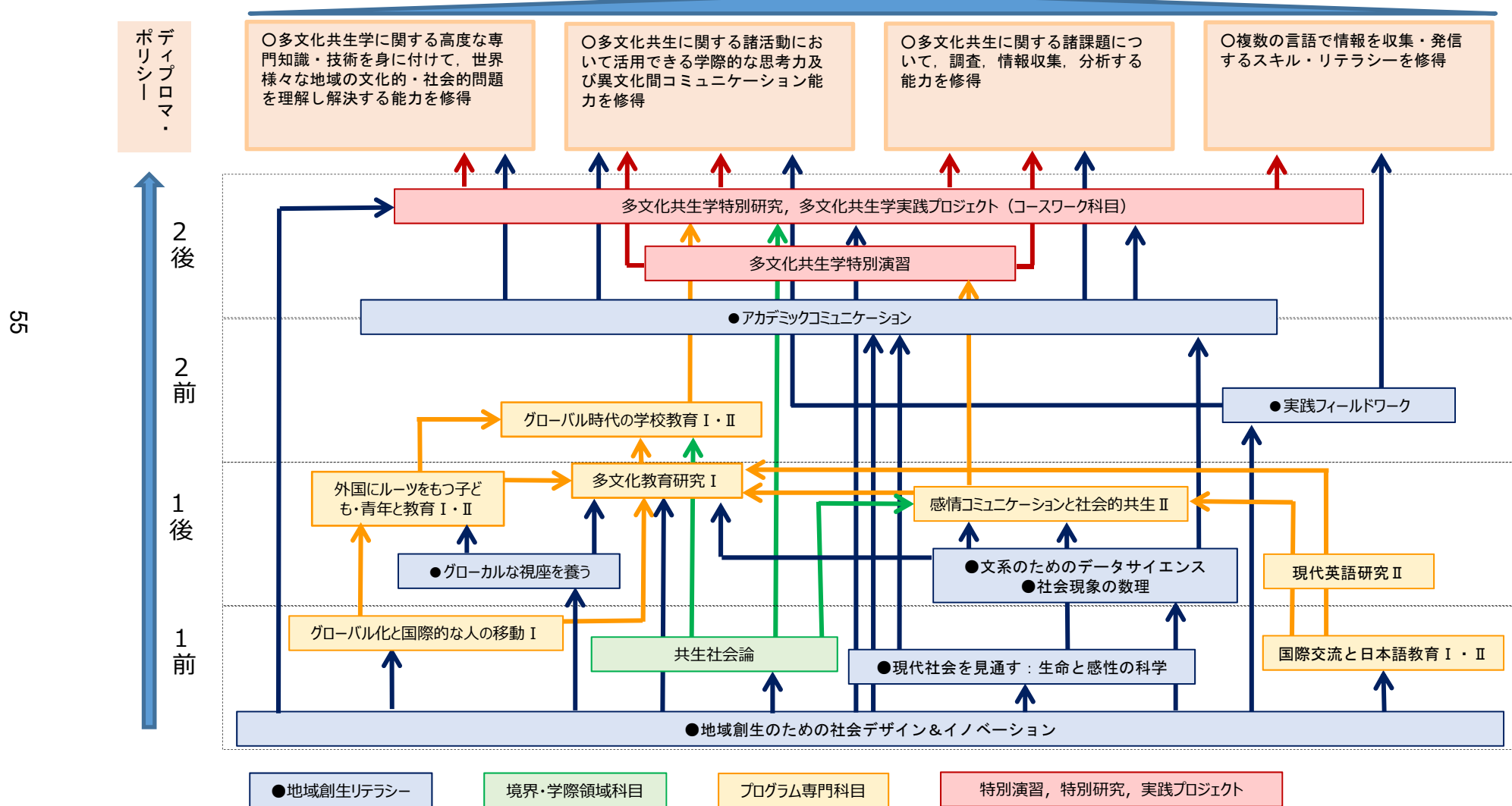
※1. 科目名の区分 : 必修科目 , 選択科目 ※2. ( )内は単位数 ※3. [E]は英語対応科目



## 育成する人材像

多文化共生学に関する高度な知識・技術を修得して、**文化・言語・思想・宗教・価値観・立場の異なる人々が共に生きる多文化共生社会をデザインする能力**を有し、持続可能な豊かな**地域社会の創生に貢献**できる人材

## 具体例：グローバル化に伴う外国人児童生徒教育問題の課題解決に資する人材養成



特別演習, 特別研究, 実践プロジェクトは1~2の通年授業であるが, 関連性を分かり易く示すために2年次後期のみ表示している

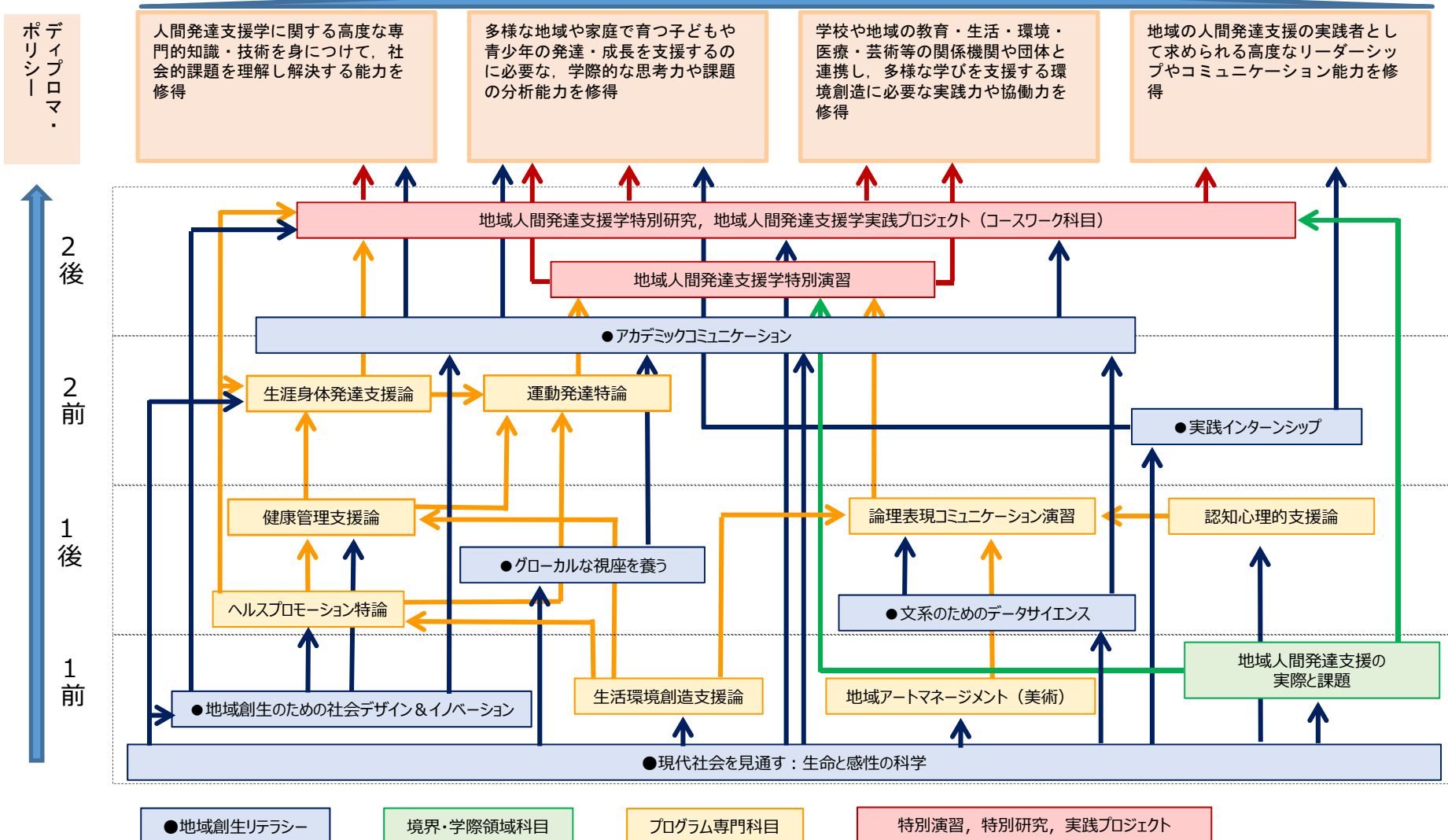
育成する人材像	養成する能力等	学年	科目名等	必要単位数
<p>人の人間発達能力を、支援し、高度な知識・技術をかき、地域社会に、創生に社会貢献し、生活人等</p>	<p>(学際的思考力と実践力) 地域課題に対する学際的思考力を養成 学際的思考力とプレゼンテーション能力を養成 地域課題への実践力(グローバルなコミュニケーション能力, チャレンジ精神, 協働能力)を養成</p>	1年次	<p>≪ 持続的な社会の創生に関して、多面的視野(根源的視野, 学際的視野, グローカルな視野)と学際的思考力の基礎を養成 ≫</p> <p>地域創生のための社会デザイン&amp;イノベーション(2), 現代社会を見通す: 生命と感性の科学(1), グローカルな視座を養う(1)</p>	4単位
		2年次	<p>≪ 【理系科目群】 情報・数的処理関連及び異分野・学際関連能力を養成 ≫</p> <p>【情報・数的処理関連】 社会現象の数理, 文系のためのデータサイエンス (各1) 【異分野・学際関連】 文系のためのオプト・バイオサイエンス入門, 食品機能科学, メカニカル・エンジニアリング, 情報電気電子システム工学概論, 博物学史 (各1)</p> <p>アカデミックコミュニケーション(2)</p> <p>実践インターンシップ, 実践フィールドワーク, 創成工学プロジェクト演習, 国際インターンシップ, 臨地研究, International Political Economy [E], Global Management [E], Globalization and Society [E] (各2)</p>	2単位 2単位 2単位
	<p>学位プログラムの専門性を養成</p> <p>○人間発達支援学に関する高度な専門知識・技術を身に付けて、社会的課題を理解し解決する能力を養成 ○多様な地域や家庭で育つ子どもや青少年の発達・成長を支援するのに必要な、学際的な思考力や課題の分析能力を養成</p>	2年次	<p>【境界・学際領域科目 (1単位)】 地域人間発達支援の実践と課題(1)</p> <p>【プログラム専門科目】</p> <p>●<b>基盤科目 (2単位以上)</b> 人間発達支援方法論, 社会的思考支援論, 生涯発達支援論, 共に生きるかたちの心理学特論, ヘルスプロモーション特論, 生活環境創造支援論, 地域アートマネジメント(美術), 地域アートマネジメント(音楽) (各2)</p> <p>●<b>応用科目 (4単位以上)</b> 認知心理学支援論, 遊びと感情の社会学特論, 地域環境システム論, 衣環境学特論, 生活経営支援論, 消費者教育支援論, 健康管理支援論 (各2), 身体科学特論(1), 運動発達特論(2), 身体運動学演習, スポーツ指導支援論 (各1), 生涯身体発達支援論, 情報コミュニケーション演習, 情報科学技術特論, 科学コミュニケーション演習, 造形表現支援演習, 平面表現技法分析論, 地域デザインプロジェクト, 舞台芸術分析論, 音声デザイン支援論, サウンドコラボレーション, 外国語コミュニケーション演習, 論理表現コミュニケーション演習 (各2)</p> <p>他のプログラム科目の修得も認める (2単位まで)</p>	10単位
		<p>【修士論文】 地域人間発達支援学特別演習(4), 地域人間発達支援学特別研究(6)</p> <p>or</p> <p>【修士論文なし】 地域人間発達支援学特別演習(4), 地域人間発達支援学実践プロジェクト(6)</p>	10単位	
	<p><b>ディプロマ・ポリシー</b> (修了認定の基準: 身につける能力等)</p>		<p>○人間発達支援学に関する高度な専門知識・技術を身に付けて、社会的課題を理解し解決する能力を修得 ○多様な地域や家庭で育つ子どもや青少年の発達・成長を支援するのに必要な、学際的な思考力や課題の分析能力を修得 ○学校や地域の教育・生活・環境・医療・芸術等の関係機関や団体と連携し、多様な学びを支援する環境創造に必要な実践力や協働力を修得 ○地域の人間発達支援の実践者として求められる高度なリーダーシップやコミュニケーション能力を修得</p>	
	<p><b>学位</b></p>		<p><b>修士(学術) 学位取得</b></p>	

※1. 科目名の区分 : 必修科目 , 選択科目 ※2. ( )内は単位数 ※3. [E]は英語対応科目

## 育成する人材像

人間発達支援学の高度な知識・技術を修得して、人間の思考、生活、健康等の観点から、「人・ヒト」の「心とからだ」に関する社会システムをデザインする能力を有し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献できる人材

## 具体例：地域における子どもから高齢者までの人づくり



特別演習, 特別研究, 実践プロジェクトは1~2の通年授業であるが, 関連性を分かり易く示すために2年次後期のみ表示している